大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

8

2005年3月

大阪府教育委員会

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報・8　正誤表

頁・列・行	誤	正
43・右列・11行目	晴海	晴美
43・右列・25行目	平	軒平
43・右列・34行目	横口式石内	横口式石槨内
44・左列・4行目	1点弥生土器	1点、弥生土器

はじめに

今、我々埋蔵文化財に携わる者にとって大きく２つの役割が与えられています。

一つは保存であります。地下に眠る埋蔵文化財を保存し、後世に伝えることです。発掘調査もその一貫として実施しております。バブル崩壊後の景気低迷期とはいえ府内における多種多様な開発は減少することなく、平成15年度においても50,000㎡を超える調査を実施いたしました。調査には、豊富な知識と経験がもとめられ、これらを支える体制も不可欠であります。日々の調査に追われ、流されることなく、一つ一つの積み重ねが大きな成果を生み出すと考えています。

もう一つは、調査によって蓄積された膨大な資料の公開・活用であります。現地説明会の開催、弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、泉北考古資料館での展示、資料の貸出や閲覧などを通じて、文化財の普及啓発に努めております。文化財が府民の皆様にとって、わかりやすく、身近に接することのできるものになることが重要と考えています。

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報も、大阪府教育委員会が実施した埋蔵文化財の発掘調査や普及啓発活動をまとめ、広く府民の皆様に公開するものとして、平成９年度に文化財調査事務所を開所以来発刊しております。

今後とも文化財保護行政に対しまして、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成17年３月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　向井　正博

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第８冊である。

2．本書には、本府教育委員会が実施した平成15年度の発掘調査及び普及啓発活動等の記録を記載している。

3．埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。

なお、概要報告表題の調査番号は第５・６表の調査番号と一致する。

遺跡名（平成15年度調査番号）

（１）　所在地

（２）　調査の原因となった事業

（３）　調査担当者

4．各項の執筆分担は次のとおりである。

「平成15年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第二グループ課長補佐　高島　徹
「調査概要報告」	各調査担当者
「普及啓発・広報事業」	調査管理グループ
「資料の貸出・掲載・閲覧」	調査管理グループ

5．本書の編集は、調査管理グループが行った。

6．本書は500部作成し、一部あたりの単価は410円である。

目　　次

はじめに
例　言
目　次
挿図目次・表目次
平成15年度における埋蔵文化財調査の概況 …… 1
調査概要報告
　御屋北遺跡　（０３００１）…… 6
　平尾遺跡　（０３００２）…… 7
　志紀遺跡　（０３００３）…… 8
　加納・半石古墳群　（０３００７）…… 9
　高槻城跡　（０３００８）……13
　瓜破北遺跡　（０３００９）……14
　大町遺跡　（０３０１３）……15
　中畑遺跡　（０３０１４）……16
　招提中町遺跡　（０３０１５）……17
　府中遺跡　（０３０１７）……18
　安松田遺跡　（０３０１８）……19
　学園町遺跡　（０３０１９）……20
　鼻中遺跡・板原遺跡　（０３０２０）……21
　陶器遺跡・陶器千塚古墳群（０３０２１）……22
　新上小阪遺跡　（０３０２２）……23
　萱振遺跡　（０３０２６）……25
　長池窯跡群　（０３０２８）……26
　植松遺跡　（０３０３２）……27
　下池田遺跡　（０３０３６）……28
　余部遺跡　（０３０４０）……29
　桑原遺跡　（０３０４３）……30
　大県郡条里遺跡　（０３０４４）……31
　高安古墳群　（０３０４７）……32
　府中遺跡　（０３０４８）……33
　男里遺跡　（０３０４９）……40
　堀遺跡　（０３０６３）……41
　小阪合遺跡　（０３０６７）……42
普及啓発・広報事業 ……43
資料の貸出・掲載・閲覧 ……46
文化財保護課・文化財調査事務所組織図 ……54

挿図目次

第1図　調査位置図 …… 5
第2図　掘立柱建物1 …… 6
第3図　井桁で構築された井戸 …… 6
第4図　井戸3－1掘削状況 …… 7
第5図　蹄脚円面硯・獣脚円面硯・石製丸鞆 … 7
第6図　調査区位置図 …… 8
第7図　古墳時代遺構面検出状況 …… 8
第8図　アカハゲ古墳平面・断面図 …… 10
第9図　古墳全景 …… 11
第10図　盛土内暗渠 …… 12
第11図　高槻城跡略図 …… 13
第12図　堀土層断面図 …… 13
第13図　金箔瓦実測図 …… 13
第14図　調査区位置図 …… 14
第15図　5区南壁断面図 …… 14
第16図　5区調査状況 …… 14
第17図　調査区平面図 …… 15
第18図　1区全景 …… 15
第19図　2区全景 …… 15
第20図　中畑遺跡8区平面図 …… 16
第21図　方形周溝墓遺物出土状況 …… 17
第22図　竪穴住居1 …… 17
第23図　竪穴住居内土坑遺物出土状況 …… 17
第24図　竪穴住居2 …… 17
第25図　調査位置図 …… 18
第26図　周溝墓と河道 …… 18
第27図　遺構平面図 …… 18
第28図　周辺の遺跡と調査区位置図 …… 19
第29図　遺構平面図 …… 19
第30図　調査区位置図 …… 20
第31図　調査区土層・銭貨出土状況 …… 20
第32図　第1調査区 …… 21
第33図　瓦質羽釜出土状況（第1調査区） …… 21
第34図　井戸 …… 21
第35図　陶器遺跡第4区遺構配置図
（第3・5区は北方に隣接する） …… 22
第36図　調査区位置図 …… 23
第37図　2区垂直写真 …… 23
第38図　1区垂直写真 …… 23
第39図　古代面（第4遺構面）検出状況（北東から） … 24
第40図　調査区位置図 …… 25
第41図　遺物出土状況 …… 25
第42図　長池窯跡トレンチ平面図 …… 26
第43図　トレンチ調査の状況（南から） …… 26
第44図　窯状遺構検出状況（東から） …… 26
第45図　土層図 …… 27
第46図　調査区位置図 …… 27
第47図　出土遺物図 …… 28
第48図　調査区位置図 …… 28
第49図　調査区位置図 …… 29
第50図　余部南地区 …… 29
第51図　南地区遺構平面図 …… 29
第52図　桑原遺跡位置図 …… 30
第53図　出土遺物 …… 30
第54図　調査区位置図 …… 31
第55図　8トレンチから調査対象地を望む（西から） … 31
第56図　B区全体平面図 …… 32
第57図　調査区位置図 …… 33
第58図　出土遺物図1 …… 33
第59図　出土遺物図2 …… 35
第60図　出土遺物図3 …… 36
第61図　出土遺物図4 …… 37
第62図　出土遺物図5 …… 38
第63図　基本層序（第2区第5a面北より） … 39
第64図　第2区集石遺構（北西より） …… 39
第65図　第2区集石遺構（南より） …… 39
第66図　集石遺構の細部 …… 39
第67図　集石遺構の細部 …… 39
第68図　調査区位置図 …… 40
第69図　調査区位置図 …… 41
第70図　第5トレンチ溝堀状況 …… 41
第71図　調査区位置図（断りのない調査区は八尾市分） … 42
第72図　古代面検出状況 …… 42
第73図　調査区平面図 …… 42

表目次

第1表　平成15年度地域・原因別調査種別表 …… 1
第2表　年度別調査面積・件数一覧表 …… 2
第3表　平成15年度調査箇所一覧（1） …… 3
第4表　平成15年度調査箇所一覧（2） …… 4

平成15年度における埋蔵文化財調査の概況

高島　徹

1，15年度における調査面積と件数

平成15年度に大阪府教育委員会で実施した埋蔵文化財調査は、発掘調査28件、立会調査17件、確認調査17件、試掘調査８件、遺物整理６件。面積の把握が曖昧になりやすい立会調査及び遺物整理を除く、発掘・確認・試掘調査の実施面積は52,385㎡。文化財調査事務所が開設された平成８年度から14年度までの平均実施件数と面積をみるとそれぞれ72.1件、48,315㎡の数値を得る。15年度もほぼ例年並みの面積、件数であったといえる。なお、平成13年度の実施面積には立会調査1件45,000㎡が含まれており、平均面積の算出ではこれを除いている。

発掘調査の総面積は48,249㎡、最大は03001瓢屋北遺跡Ｂ，Ｃの10,973㎡、最小は03005東奈良遺跡４㎡、平均1,723㎡。確認調査の総面積は3,010㎡、平均177㎡。試掘調査のそれは1,126㎡、平均141㎡である。確認調査では17件中８件、試掘調査では８件中５件で土木工事等に先立って発掘調査が必要となった。

全体の状況を地域と調査の原因となった事業によって整理したのが表１である。15年度は豊能地域で調査が無く、大阪市域についても例年通り件数、面積ともに少ない。

発掘調査の状況を地域別にみると、件数では中河内の７件が最も多いが、三島、北河内、南河内、泉北、泉南でも４ないし５件の発掘調査があり、調査の無かった豊能及び大阪市を除いては、府下で平均的な件数の発掘調査があったことがわかる。ただし、調査面積との関係でみると北河内と南河内がそれぞれ15,733㎡、14,250㎡と、全体の30％、27.2％を占め、次いで泉南が大きくなる。これは、北河内では03001瓢屋北遺跡Ｂ，Ｃ、03046瓢屋北遺跡Ｄという下水道事業にかかる大規模発掘が行われたためであり、南河内ではほ場整備事業に伴う03007平石古墳群の発掘調査と道路新設事業に伴う03002平尾遺跡の発掘調査がともに5,000㎡を超えるものであったことに由来する。また、泉南では三箇所で府営住宅の建替えに伴う発掘調査を行ったことが調査面積を押し上げた要因となっている。一方、発掘調査件数の最も多かった中河内は調査面積が2,233㎡と最も少ない。これは、当該地域では比較的小規模ではあるが多数の発掘調査を実施しなければならなかったことを意味している。

立会・試掘・確認調査の件数では、確認調査における南河内の６件が目を引くものの、全体として各地域間で大きなばらつきは無いといえる。ただし、試掘・確認調査は、現地の状況によりその実施面積が大きく左右されることがある。既設の住宅等があるため十分な試掘・確認調査の面積が確保できない場合も少なくない。試掘・確認調査における実施面

		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉北	泉南	大阪市	合　計
住宅	試掘					1		2		3
	確認					20		30		50
	発掘		1		1			2		5
	立会		16		42			300	182	540
	小計			2	2	1		3		8
				2,390	1,250	25		8,267		11,932
			1		1		1			3
	小計	0	2	3	3	1	2	4	4	19
		0	16	2,390	1,292	25	20	8,567	212	12,522
農林	試掘									0
	確認					2				2
						168				168
	発掘		1		1	1	1	1		5
			4,881		148	5,192	1,632	400		12,273
	立会									0
	小計	0	1	0	1	3	1	1	0	7
		0	4,881	0	148	5,360	1,632	400	0	12,441
道路	試掘		46	200		108				354
	確認		1			2	1	1		5
			1			832	6	4		866
			1		1	2	3			7
	発掘		84		50	7,719	1,935			9,788
	立会			2	1	3				6
	小計	0	3	3	2	8	4	1	0	21
		0	134	200	50	8,679	1,941	4	0	11,006
下水	試掘									0
	確認									0
										4
	発掘		1	2	1					4
			4	12,383	30					13,017
	立会				1			1		2
	小計	0	1	2	2	0	0	1	0	6
		0	4	12,383	30	0	0	1	0	13,017

		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉北	泉南	大阪市	合　計
高槻	試掘									0
	確認									0
										0
	発掘			1		1				2
				374		680				1,054
	立会			2	1	1			1	5
	小計	0	0	3	1	2	0	0	1	7
		0	0	374	0	680	0	0	0	1,054
枚方	試掘			1						1
				548						548
	確認					1	1			2
						1,044	6			1,050
	発掘									0
										0
	立会					1				1
	小計	0	1	0	2	1	0	0	0	4
		0	548	0	1,044	6	0	0	0	1,598
河内	試掘									1
							174			174
	確認					1			1	3
				160		180			46	386
	発掘				1		1			2
					75		110			185
	立会									0
	小計	0	0	1	1	1	2	0	1	5
		0	0	160	75	180	284	0	46	745
その他	試掘		1	2	1	0	1	2	0	8
		0	594	200	0	108	194	0	30	1,126
	確認	0	2	1	2	6	1	2	3	17
		0	20	160	1,086	1,206	6	304	228	3,010
	発掘	0	4	4	7	4	5	4	0	28
		0	5,343	15,373	2,233	12,936	3,697	8,667	0	48,249
	立会	0	3	4	4	3	1	2	0	17
	小計	0	11	10	13	14	9	8	5	70
		0	5,957	15,733	3,319	14,250	3,897	8,971	258	52,385

（註）上段は件数、下段は面積（㎡）

第１表　平成15年度地域・原因別調査種別表

積のばらつきはそのことの反映でもある。

次に、調査の原因となった事業別に状況をみておこう。原因事業を、道路関係、下水道関係、河川改修関係、府営住宅関係、農林関係、府立高校関係、その他（以下、それぞれ「道路」、「下水」、「河川」、「住宅」、「農林」、「高校」、「その他」と記す。表・グラフについても同様。）に大別し、面積で比較すると、下水24.8％（13,017㎡）、住宅23.9％（12,522㎡）、農林23.7％（12,441㎡）、道路21.0％（11,008㎡）の４事業で全体の90％以上を占める。一方、件数で比較すると道路30.0％（21件）と住宅27.1％（19件）の二つで全体の６割弱を占めることとなる。

調査件数を原因事業と調査種別の関係においてみてみると、住宅では試掘３、確認５、発掘８、立会３、農林では確認２、発掘５、道路では試掘３、確認５、発掘７、立会６、下水では発掘４、立会２、高校では試掘発掘２、立会５、河川では試掘１、確認２、立会１、その他では試掘１、確認３、発掘２となり、住宅及び道路事業で発掘調査に加えて、試掘・確認・立会調査も多いことが分かる。両事業では発掘調査とともに、試掘・確認・立会調査が他の事業並みにあること。とりわけ道路事業においては、歩道設置等の道路の維持管理に関わる事業に伴う調査が、近年、増加していることにその原因が求められる。

なお、下水と農林が住宅、道路と同等の調査面積を占めているのは、下水において先にも触れた03001・03046蔀屋北遺跡の大規模調査があり、農林においても03014中畑遺跡4,881㎡、03007平石古墳群の２事業が実施面積の大半を占めていることの反映である。

最後に試掘・確認調査の問題について触れておきたい。15年度の試掘・確認調査では、前述のように、25件中13件で発掘調査が必要となった。とりわけ、試掘調査の結果５ケ所で新たに遺跡が発見されたという事実は、いまだ未知の遺跡が多数存在することを示しているものといってよい。開発行為等における事前協議の更なる徹底が必要であることを物語っている。

先述したように、試掘・確認調査では調査面積がその土地の固有の条件により大きく左右されることが多い。しかし、試掘・確認調査における十分な調査面積の確保は、調査の精度を高め、埋蔵文化財の保護ばかりではなく、予定されている開発行為等の進捗をも大きく左右する。関係部局との大きな協議課題といえる。

平成15年度に実施した主要な調査の概要は、後節に掲載の通りである。

２、近年における埋蔵文化財調査の動向

グラフ１・２は、平成８年度から15年度まで当事務所で行った埋蔵文化財調査の面積と件数の変化を示したものである。過去８年間での埋蔵文化財調査の変化を見てみたい。この場合に、当事務所で実施してきた埋蔵文化財調査は、100パーセント、いわゆる開発に伴う緊急調査であり、調査の動向は開発事業の変化に左右される。どの地域でどのような事業が計画されるかによって、地域毎の調査量は変化する。よって、事業ごとの変化を中心にみてゆくことが適当である。

調査面積と件数の変化を事業別に見てみると、総じて住宅、道路、農林、下水の４事業が、調査の主因であることが分かるとともに、事業毎に見た場合でも、年度毎の変異の小さくないことがわかる。

住宅と道路は、平成９年度ないし10年度にピークがあり、その後減少したものの、14、15年度から再び増加している。調査面積と件数を総合的に見た場合、現在の調査原因二大要因ともいえる事業であり、府営住宅の建替えや道路の新設といった事業が、今後どのように展開するかによって、埋蔵文化財調査の動向が大きく左右されることは確かであろう。

農林は10年度にピークがきた後は減少し続けている。これは、ほ場整備事業を原因とする埋蔵文化財調査が収束しつつあることによる。今年度、豊能地区での調査が無かったのは、当該地区でのほ場整備事業にかかる調査が前年度で終了したことが主因である。

下水は、平成13年度から調査面積が急増した。これは、この年からなわて水環境保全センター建設に関わる蔀屋北遺跡の発掘調査が始まったことに原因があり、同年度からの北河内地域での調査面積にも反映している。下水道事業の特徴として、大規模施設が計画され、事前に埋蔵文化財調査が必要となった場合、調査面積を一気に引き上げる要因となることがある。

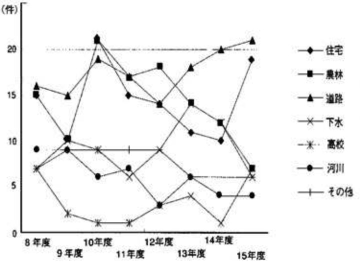
高校、河川及びその他事業については、それらが当事務所で実施してきた調査の主流となることは無かった。高校や河川は比較的小規模なものが多く、その他事業は単発的なものであることが大半である。しかし、これらも毎年度ゼロになることは無く、いずれかの地域で、何らかの調査が実施されてきている。

全国的、全庁的な公共事業の見直しの中で、上述したここ８年間の傾向が今後も続くかどうかは分からない。ただ、第２表に示すように、この８年間で調査面積、件数ともに極端に大きな変動は無い。見方を変えるならば、この数字は、当事務所における調査能力をも示していると理解できる。今後、公共事業の枠組みが大きく変化するようなことがあれば、現在の調査事務所の体制も再構成する必要が生じるであろう。

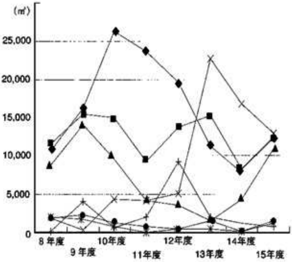
	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度	
	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数	面 積	件数
住 宅	10,696.5	15	16,304.0	10	26,271.0	21	23,590.0	15	19,623.0	14	11,340.0	11	7,905.0	10	12,522.0	19
農 林	11,539.0	15	15,482.0	10	15,026.0	21	9,242.0	17	13,817.0	18	15,250.0	14	8,147.0	12	12,441.0	7
道 路	8,870.5	16	14,074.0	15	9,590.4	19	4,159.0	17	3,504.0	14	1,518.0	18	4,256.0	20	11,008.0	21
下 水	1,948.5	7	294.0	10	4,355.9	9	4,149.0	6	5,066.0	9	22,698.0	14	16,846.0	12	13,017.0	6
高 校	1,844.0	7	1,680.0	2	750.0	1	8.0	1	425.0	3	526.0	4	8.0	1	1,054.0	7
河 川	1,738.6	9	2,351.0	9	1,125.0	6	841.0	7	530.0	3	1,389.0	6	146.0	4	1,598.0	4
その他	207.0	7	3,946.0	9	665.0	9	2,046.0	9	9,220.0	9	2,000.0	6	1,199.0	6	745.0	6
合計	36,844.1	76	54,131.0	65	57,783.3	86	44,035.0	72	52,185.0	70	54,721.0	73	38,507.0	65	52,385.0	70

（註）1，面積の単位は㎡。
2，13年度農林には試掘調査1件45,000㎡を含まない。

第2表　年度別調査面積・件数一覧表



グラフ1　事業別調査件数の推移



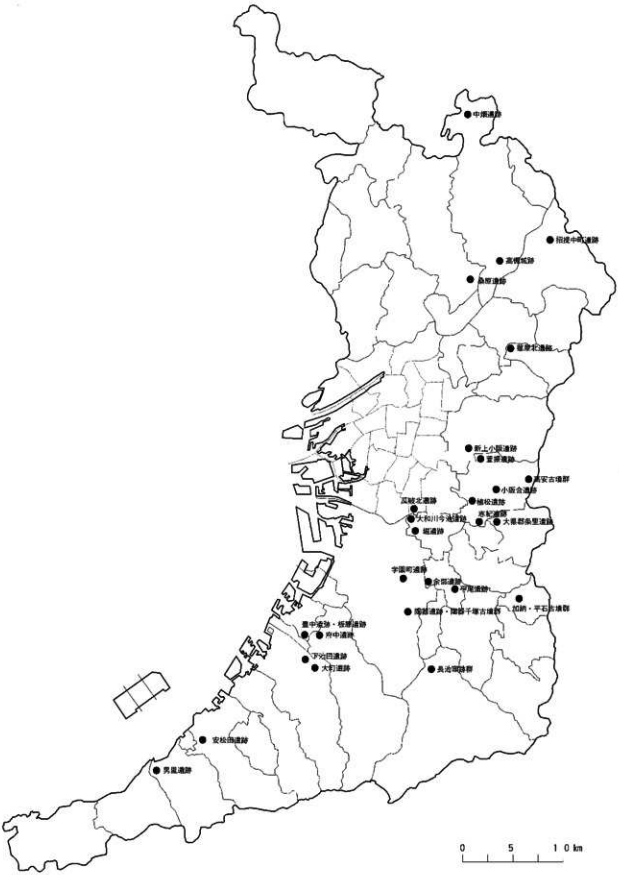
グラフ2　事業別調査面積の推移

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
03001	蔀屋北遺跡BC	四條畷市蔀屋・砂	発掘	前年度から継続	次年度へ継続	5,260㎡ 5,713㎡	岩瀬 藤田	下水道課	寝屋川南部流域下水道 なわて水環境保全センター
03002	平尾遺跡	美原町平尾	発掘	平成15年6月1日	平成16年3月25日	5,249㎡	西川	交通道路室 道路整備課	主要地方道堺富田林線 舟渡バイパス
03003	志紀遺跡	八尾市志紀町西	発掘	平成15年5月20日	平成15年6月18日	38㎡	横田	住宅整備課	府営八尾志紀住宅建替
03004	総持寺遺跡	茨木市三島丘	立会	平成15年5月7日	平成15年5月13日	-	阪田	住宅整備課	府営茨木三島丘住宅建替
03005	東奈良遺跡	茨木市東奈良3丁目	発掘	平成15年6月10日	平成15年6月12日	4㎡	泉本	下水道課	安威川流域下水道 茨木吹田幹線
03006	遺跡外 （学園町遺跡）	堺市学園町1番1号	試掘	平成15年5月28日	平成15年5月30日	174㎡	橋本	大学改革課	大阪府立大学工学部新学舎建設
03007	平石古墳群	河南町平石町地内	発掘	平成15年6月26日	平成16年3月26日	5,192㎡	橋本	農政室整備課	府営中山間地域総合整備事業 南河内「こごせ地区」
03008	高槻城跡	高槻市城内町2－13	発掘	平成15年6月26日	平成15年10月14日	374㎡	泉本	高校改革課	府立槻の木高校音楽室建設
03009	瓜破北遺跡	大阪市平野区瓜破西1丁目	確認	平成15年7月28日	平成15年8月5日	141㎡	大楽	住宅整備課	府営瓜破西住宅建替
03010	矢田部遺跡	大阪市東住吉区 公園南矢田1丁目	確認	平成15年8月6日	平成15年8月22日	41㎡	大楽	住宅整備課	府営矢田部住宅建替
03011	遺跡外	大阪市住吉区長居西1丁目	試掘	平成15年8月21日	平成15年8月25日	20㎡	大楽	住宅整備課	府営長居西住宅建替
03012	遺跡外	堺市南長尾町3丁～4丁	試掘	平成15年8月26日	平成15年8月29日	20㎡	大楽	住宅整備課	府営堺南長尾住宅建替
03013	大町遺跡	岸和田市大町	発掘	平成15年9月9日	平成16年3月1[illegible]日	3,369㎡	大楽	住宅整備課	府営岸和田大町（旧久米田第二） 住宅建替
03014	中畑遺跡	高槻市大字中畑	発掘	平成15年6月30日	平成16年2月26日	4,881㎡	泉	農政室整備課	農地還元資源利活用事業樫田地区
03015	招提中町遺跡	枚方市東牧野町	発掘	平成15年7月1日	平成16年3月25日	2,350㎡	井西	住宅整備課	府営枚方東牧野住宅建替
03016	木積観音寺跡	貝塚市木積	確認	平成15年6月30日	平成15年6月30日	4㎡	藤沢	交通道路室 交通対策課	一般国道（旧）170号線歩道設置
03017	府中遺跡	和泉市府中町	発掘	平成15年6月13日	平成15年11月28日	876㎡	河部	交通道路室街路課	都市計画道路和泉中央線整備事業
03018	安松田遺跡	泉佐野市羽倉崎町	発掘	平成15年6月17日	平成15年12月26日	2,369㎡	杉本	住宅整備課	府営羽倉崎住宅建替
03019	学園町遺跡	堺市学園町1番1号	発掘	平成15年7月9日	平成15年7月30日	110㎡	藤沢	大学改革課	大阪府立大学工学部新学舎建設
03020	府中・板原遺跡	和泉市肥子町	発掘	平成15年7月14日	平成16年3月15日	1,015㎡	亀島	交通道路室街路課	都市計画道路和泉中央線整備事業
03021	陶器遺跡・ 陶器千塚	堺市陶器北	発掘	平成15年7月10日	平成15年12月26日	1,652㎡	山田	農政室整備課	府営圃場整備事業「陶器北地区」
03022	新上小阪遺跡	東大阪市新上小阪	発掘	平成15年6月26日	平成15年11月16日	1,212㎡	一瀬	住宅整備課	府営東大阪新上小阪住宅建替
03023	長田郡条里	寝屋川市幸町	確認	平成15年6月17日	平成15年6月25日	160㎡	小林	府警本部施設課	寝屋川待機宿舎建替

第3表　平成15年度調査箇所一覧（1）

03024	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	発掘	平成15年7月1日	平成15年7月8日	75㎡	小林	公園課	久宝寺緑地便所建設
03025	余部遺跡	美原町北余部	立会	平成15年7月24日	平成15年7月24日	–	西口	交通道路室 道路整備課	主要地方道大阪狭山線建設
03026	萱振遺跡	八尾市萱振町	発掘	平成15年8月20日	平成16年3月15日	680㎡	横田	高校改革課	八尾北高校校舎建設
03027	遺跡外	河内長野市西片添	立会	平成15年8月19日	平成15年8月19日	–	西口	交通道路室 交通対策課	国道371号（旧）歩道設置事業
03028	長池窯跡群	河内長野市小山田町	確認	平成15年8月25日	平成15年9月12日	332㎡	西口	交通道路室 道路整備課	府道大野天野線道路改良事業
03029	豊川遺跡	茨木市豊川	確認	平成15年9月19日	平成15年9月19日	4㎡	宮崎	交通道路室街路課	（府）道祖本橋梁北部街路築造工事
03030	安威遺跡	茨木市十日市町	発掘	平成15年9月29日	平成15年10月10日	84㎡	宮崎	交通道路室街路課	主要地方道茨木亀岡線道路改良事業
03031	吉井遺跡	岸和田市吉井町	確認	平成15年9月9日	平成15年9月30日	300㎡	藤沢	住宅整備課	府営岸和田吉井住宅建替
03032	横枕遺跡	八尾市横枕町8丁目	確認	平成15年10月10日	平成15年10月28日	42㎡	一瀬	住宅整備課	府営八尾横枕住宅建替
03033	老原遺跡	八尾市老原1丁目	発掘	平成15年10月10日	平成15年10月13日	50㎡	岩崎	交通道路室 交通対策課	府道八尾道明寺線交差点改良
03034	[illegible]木遺跡	河内長野市日野	確認	平成15年11月11日	平成15年11月27日	160㎡	西口	農政室整備課	府営農林整備総合整備事業 「河内長野和泉地区」
03035	上本町南遺跡	大阪市天王寺区上汐4丁目	確認	平成15年10月20日	平成15年10月10日	46㎡	西口	能力開発課	中小企業文化会館駐車場 アスファルト撤去等工事
03036	下池田遺跡		発掘	平成15年10月20日	平成16年3月1日	2,529㎡	藤沢	住宅整備課	府営岸和田下池田（旧久米田第4） 住宅建替
03037	吹田須恵器窯跡群	吹田市原町4丁目	立会	平成15年10月24日	平成15年10月24日	–	宮崎	施設課	吹田高校下水管渠
03038	遺跡外	富田林市宮町	試掘	平成15年11月4日	平成15年11月5日	108㎡	西口	交通道路室 道路整備課	主要地方道美原太子線
03039	柿ヶ坪遺跡	富田林市西板持6丁目	確認	平成15年11月5日	平成15年11月5日	6㎡	西口	河川室河川整備課	一級河川佐備川改修事業
03040	余部遺跡	美原町北余部	発掘	平成15年11月4日	平成16年3月30日	2,470㎡	阿部	交通道路室 道路整備課	主要地方道大阪狭山線
03041	余部遺跡	美原町南余部	発掘	平成15年11月18日	平成15年12月5日	25㎡	阿部	住宅整備課	府営南余部住宅外周道路
03042	福井遺跡	茨木市福井2丁目	確認	平成15年11月25日	平成15年11月26日	16㎡	宮崎	住宅整備課	府営茨木西福井住宅建替
03043	遺跡外	茨木市桑原	試掘	平成15年12月1日	平成15年12月26日	548㎡	泉本	河川室ダム砂防課	安威川ダム残土処分地
03044	大県郡条里遺跡	柏原市法善寺2丁目	確認	平成15年12月8日	平成16年3月26日	1,044㎡	一瀬	河川室河川整備課	法善寺多目的遊水池
03045	府中遺跡	和泉市府中町2丁目	確認	平成15年12月1日	平成15年12月1日	6㎡	広瀬	交通道路室 交通対策課	大阪和泉泉南線歩道設置
03046	蔀屋北遺跡D	四條畷市蔀屋・砂	発掘	平成15年12月9日	16年度へ継続	2,010㎡	宮崎	下水道課	寝屋川南部流域下水道 なわて水環境保全センター
03047	高安古墳群	八尾市神立他	発掘	平成15年7月7日	平成16年2月7日	148㎡	一瀬	農政室整備課	府営農林漁業用揮発油税財源身替 農道整備事業八尾地区
03048	府中遺跡	和泉市府中町2丁目	発掘	平成16年2月2日	平成16年12月5日	44㎡	山田	交通道路室 交通対策課	大阪和泉泉南線歩道設置
03049	男里遺跡	泉南市男里	発掘	平成15年10月14日	平成15年12月8日	400㎡	藤沢	農政室整備課	府営ため池等整備事業 泉南Ⅱ期地区（双子池）
03050	遺跡外	富田林市竜泉	立会	平成16年1月23日	平成16年1月23日	–	西口	交通道路室 交通対策課	一般府道甘南備川向線歩道設置
03051	遺跡外	茨木市安威3丁目	試掘	平成15年12月24日	平成16年1月29日	46㎡	泉本	交通道路室街路課	主要地方道茨木亀岡線道路改良事業
03052	桜井別所跡	島本町桜井台	立会	平成16年2月10日	平成16年2月10日	–	泉本	施設課	島本高校エレベーター設置
03053	縄立遺跡隣接地	東大阪市鷹殿町	立会	平成16年2月20日	平成16年2月20日	–	泉本	施設課	枚岡樟風高校エレベーター設置
03054	遺跡外	寝屋川市国守他	試掘	平成15年9月2日	平成15年9月7日	200㎡	小林	交通道路室街路課	国守黒原線
03055	尊延寺遺跡	枚方市尊延寺	立会	平成15年9月29日	平成15年9月29日	–	小林	交通道路室 交通対策課	国道310号歩道設置事業
03056	遺跡外	守口市淀江町	立会	平成15年10月8日	平成15年10月8日	–	小林	住宅管理課	府営淀江住宅エレベーター設置
03057	津田遺跡	枚方市津田	立会	平成15年11月15日	平成15年11月15日	–	小林	交通道路室街路課	国道310号歩道設置事業
03058	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町	発掘	平成15年12月9日	平成15年12月11日	40㎡	小林	住宅整備課	府営枚方住宅建替
03059	雁屋遺跡	四條畷市雁屋	立会	平成15年12月25日	平成15年12月25日	–	小林	施設課	府立四條畷高校改築
03060	岩滝山遺跡	東大阪市六万寺町	立会	平成16年1月8日	平成16年1月8日	–	岩[illegible]	河川室ダム砂防課	大門川砂防事業
03061	遺跡外	貝塚市地蔵堂他	立会	平成16年2月19日	平成16年2月24日		広瀬	下水道課	湾岸流域下水道
03062	遺跡外	堺市金岡東	立会	平成16年3月2日	平成16年3月2日	–	広瀬	住宅管理課	金岡東第6住宅エレベーター設置
03063	[illegible]・高木遺跡	松原市[illegible]他	確認	平成16年3月8日	平成16年3月8日	520㎡	西口	交通道路室街路課	府道堺港大堀線
03064	遺跡外	貝塚市畠中	立会	平成16年2月3日	平成16年2月3日	–	広瀬	施設課	貝塚高校エレベーター設置
03065	寛弘寺古墳群	河南町神山	確認	平成15年6月9日	平成15年6月9日	8㎡	橋本	農政室整備課	中山間地域総合整備事業 南河内こごせ地区
03066	農林センター 散布池	羽曳野市尺度	確認	平成16年3月26日	平成16年3月26日	180㎡	西口	就労支援課	知的障害者通所授産施設整備
03067	小阪合遺跡	八尾市南小阪合町1丁目	発掘	平成16年3月2日	平成16年3月10日	30㎡	一瀬	下水道課	寝屋川南部流域下水道 柏原八尾増補幹線
03068	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺～亀井	立会	平成16年1月24日	平成16年2月23日	–	一瀬	下水道課	竜華水環境保全センター送泥管 （1工区）
03069	跡部遺跡	八尾市跡部北の町	立会	平成15年12月11日	平成15年12月11日	–	一瀬	交通道路室街路課	都市計画道路久宝寺太田線整備事業
03070	遺跡外	大阪市東淀川区豊新5丁目	試掘	平成15年7月28日	平成15年7月29日	10㎡	小林	住宅整備課	府営豊新住宅建替

第4表　平成15年度調査箇所一覧（2）


中原遺跡
相撲中町遺跡
高橋城跡
島原遺跡
藤原北遺跡
新上小阪遺跡
重原遺跡
高安古墳群
小阪合遺跡
成松遺跡
瓜破北遺跡
大和川今池遺跡
恵紀遺跡
大幕郡条里遺跡
堀遺跡
宇国町遺跡
余部遺跡
平尾遺跡
加納・平石古墳群
鳳凰遺跡・陽都千塚古墳群
豊中遺跡・桜塚遺跡
府中遺跡
下沙田遺跡
大町遺跡
長池環跡群
安松田遺跡
男里遺跡
0
5
10 km

第１図　調査位置図

しとみやきた
蔀屋北遺跡（０３００１）

（１）　四條畷市蔀屋・砂
（２）　寝屋川北部流域下水道水環境保全センター
（３）　藤田道子

１．はじめに

蔀屋北遺跡の発掘調査は、なわて水環境保全センター水処理施設建設に先立ち、平成13年度に着手した。南側３分の１のＡ調査区は平成15年３月に完了した。平成14年５月に着手した北側３分の1のＣ調査区は平成15年12月に完了した。中央部分のＢ調査区は平成15年５月に着手している。

２．Ｃ調査区の調査成果の概要

調査が完了したＣ調査区では、T.P.＋3．25ｍから調査を開始し、T.P.＋1．5ｍまでの間で検出した主な遺構面は11面である。平安時代より下層の遺構面は北西から南東にむかって傾斜しており、第4面では調査区北半の微高地上に平安時代後期の集落跡を検出している。第５面から第８面は平安時代の水田遺構を検出している。第７面で検出した小区画水田の畦畔は、ほぼ正南北方向をとっているが、第８面で検出した９世紀代の畦畔は、調査区南東の谷地形に沿うかたちで作られており、当地の条里制施行が平安時代前期にさかのぼらないことを裏付けることになった。T.P.1．8ｍ前後の第10面は古墳時代後期、T.P.1．5m前後の第11面は古墳時代中期～後期の遺構面である。古墳時代の遺構面からは、竪穴住居跡11棟、掘立柱建物34棟以上、井戸、カマド跡など集落を構成する遺構を多数検出した。これらの建物群は、出土遺物や建物の配置、プランなどから５世紀後半～６世紀末までのあいだで少なくとも６期以上の変遷を復原する事が可能である。

３．古墳時代の遺構と遺物の特徴

Ｃ調査区では、建物を構成する部材である柱や礎板を多数検出した。建物の柱材は柱根のみ残存したものも含め合計150点余り検出した。そのうち第10面で検出した掘立柱建物１では建物を構成する柱14ヶ所の内13ヶ所に柱材が、南側の庇列５ヶ所の柱穴で４ヶ所に柱材を検出した。検出した柱材は、おおむね当時の生活面より上部に25cm前後、地下に70cm程度残存している状態を確認している。また約300ヵ所の柱穴から礎板を検出した。これらの礎板は単に柱の沈み込みを防ぐために板材を敷きこむだけではなく、根固め状に細かい木片を入れてあるもの、板材等を積み重ねて高さ調節を行っているなど、さまざまな出土例を確認している。さらに板材ではなくワラ材を穴底に敷いている例も20ヶ所で確認した。これらの資料は低湿地集落の建物のあり方を示す好例といえよう。３基確認した井戸のうち１基は板材を５段井桁に組み合わせ、その上部に船材を井戸枠に転用して筒状に組み合わせて載せている状態を検出した。Ｃ調査区ではコンテナ約600箱の遺物を発見した。Ａ調査区同様古墳時代中期のＵ字型土製品、馬の骨、多量の製塩土器、さまざまな韓式系土器など、また多様な滑石製石製品に加えて古墳時代後期ではガラス小玉も出土している。当遺跡はこれまでの調査成果から河内馬飼との関連を強く指摘されているが、古墳時代後期に至るまで存続した集落は井戸枠構築や大型建物群にみられるようにたんなる一般集落とはことなり高度な技術を有する

第２図　掘立柱建物１

第３図　井桁で構築された井戸

ひらお
平尾遺跡（０３００２）

（１）美原町平尾
（２）主要地方道堺富田林線舟渡バイパス
（３）西川寿勝

はじめに

平尾遺跡は昭和48・49年、府立美原高校建設に先立って３万㎡に及ぶ調査が行われたことによって判明した。このときの調査は今回調査区のすぐ北側で行われ、東西方向と南北方向の方位にそって整然と並ぶ掘立柱建物群や区画溝が発見され、注目を受けた。ただし、この調査では区画溝や柱穴の遺構を掘削せず、用地全体に盛り土を行い、府立高校の建設をしたため、遺跡の性格については確定できなかった。

平尾遺跡は古代の官道である「茅渟道」沿いにあり、飛鳥・藤原宮と難波宮をむすぶ交通の要衝に位置することが知られ、遺跡の性格をめぐっては、丹比（多治比）氏の本拠地が発展したものか、飛鳥・奈良時代の官衙跡（丹比郡衙）であるのか、という二説が提示されていた。

発見された遺構・遺物

今回調査は前年度に継続して遺跡の北東から南西にかけ８区の調査区を設けておこなった。その結果、20棟以上の掘立柱建物、東西・南北の区画溝を検出した。これらに伴って、飛鳥時代後半～奈良時代前期の土器と瓦などが発見された。また、発見された土師器・須恵器は飛鳥Ⅲ頃から平城Ⅱ段階頃に限定でき、比較的短期的な様相を示した。

二基の井戸と年輪年代測定

南西部の調査区、２・３区では掘立柱建物に伴って二基の井戸が発見された。２区で発見された井戸２－１は上面の直径約３ｍで深さ2.2ｍを測り、井戸枠は直径約1.5ｍの杉材を半裁してくり抜いたもので、丸木船を転用した可能性がある。井戸の底からは、井戸の神を鎮めた可能性のある斎串、水をすくうための木製漆塗りの勺、壷や甕などの土器が出土した。

３区で発見された井戸３－１は上面の直径約3.2ｍ、深さ2.4ｍを測り、井戸枠下段は一辺0.6ｍ、高さ0.3ｍのヒノキ板材の両端を凹凸に切り欠いて桝状に四段組んだものだった。上段は別の板材で一回り大きな枠を一段組み、それより上の構造は抜かれていた。井戸の底からは土器片などが出土した。

後者、井戸３－１のヒノキ板材のうち、５枚は樹皮に近い部分が残っていたため、年輪年代測定法で伐採年代測定を実施した結果、もっとも樹皮に近い部分を残す資料が704＋α年という数値を得た。

遺跡の性格

これまでの調査成果とあわせると、100棟近くの建物が発掘されたこととなり、遺構・遺物のひろがりから遺跡範囲は450ｍ四方の規模だったことが確認できた。

今回調査によって、瓦を伴った建物があったこと、石製腰帯飾り・硯など官衙に特有の遺物を伴うことなどから、建物群の性格は丹比郡衙と推定した。平尾遺跡は難波宮と藤原宮の中間に位置し、官道にそった要衝に立地するものの、平城遷都後はその役割が急速に変貌、衰退していったのだろう。

第４図　井戸３－１掘削状況

第５図　跡脚円面硯・獣脚円面硯・石製丸鞆

志紀遺跡（03003）

（1）八尾市志紀西

（2）府営志紀住宅防火水槽設置

（3）横田　明

志紀遺跡は府営志紀住宅立替事業に伴い発掘調査が重ねられ、弥生時代から近世にいたるまでの水田が塁層的に検出されている。今回の発掘調査は（財）大阪府文化財調査研究センター（当時）が実施した調査区の東側の防火水槽設置部分にあたる。先年の調査で検出された畦畔、溝等と関連の深い遺構、水田が発見されている。調査深度が深くにおよぶことから、鋼矢板による土留め工事をしてからの発掘調査となった。

基本層序

志紀遺跡一帯は、弥生時代以降、近世に至るまで継続的に水田が営まれたところである。土層は基本的に水平な堆積状況を示しており、塁層的に堆積した粘土層の間に砂層がはさまれている。何度も洪水に遭いながらも整地が繰り返され、耕作が続けられた様子がうかがえる。

遺構

今回の調査では大きく3時期の遺構群を確認している。これら遺構群を過去に実施された発掘調査で検出された遺構群との対応関係から整理する。

（灰褐色粘土上面）　O.P.＋11.00m前後で検出された面であり、奈良時代に比定される。東西畦畔1および2が検出されており、上幅40cm、下幅60cm、高さ20cmであり、基盤層である灰褐色粘土層を削り出して形成したものである。センターの調査した6C区第5面の畦畔40のつづき部分であると思われる。

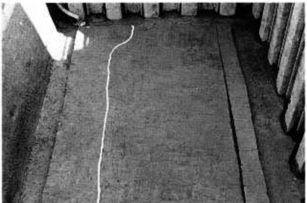
（黒灰色粘土上面）　O.P.＋10.20mを前後するレベルで検出された面であり、調査区でも東よりで南北方向の畦畔状の高まり（大畦畔—03）を検出している。上幅2.5m以上、下幅3m以上、高さ20cmであり、黒灰色粘土を削り出して形成したものである。畦畔状の盛り上がりの、西側には青色粘土が堆積している。炭状のものを含む土層で層厚20cmであり、耕作土の一部と推測される。センターの調査では5区第8面および6B区第8面の東端で古墳時代の大畦畔が検出されている。この黒灰色粘土上面とレベル的には近い。3−大畦畔は6B区第8面の大畦畔Cや5区第8面東側の大畦畔のつづきであると推測される。

（灰青色粘土上面）　弥生時代中期相当面であり6C区第9面などでは西北—東南に伸びる溝が数条確認されている。07−溝も同様な溝の続きと思われる。

まとめ

過去、センターが実施した調査において確認された遺構に連続すると思われる遺構群を検出した。弥生時代以降、この地で連綿と耕作が続けられた様相が改めて確認された。古墳時代までは自然地形に規制されながら不規則に耕作地が営まれるものの、奈良時代以降、条里制の導入により、方形区画の地割が導入される様子も追認された。

第6図　調査区位置図



第7図　古墳時代遺構面検出状況

かのう・ひらいしこふんぐん

加納・平石古墳群（０３００７）

（１）河南町平石

（２）中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」

（３）枡本　哲

葛城山西麓平石谷の発掘調査は本年度で４年目を迎えた。今回の調査は、平成13年度に調査を行ったシシヨツカ古墳や、平成14年にその北東に接して新規発見し、確認調査を実施した篤田古墳の位置する地点より、東370mに所在するアカハゲ古墳周辺が対象である。

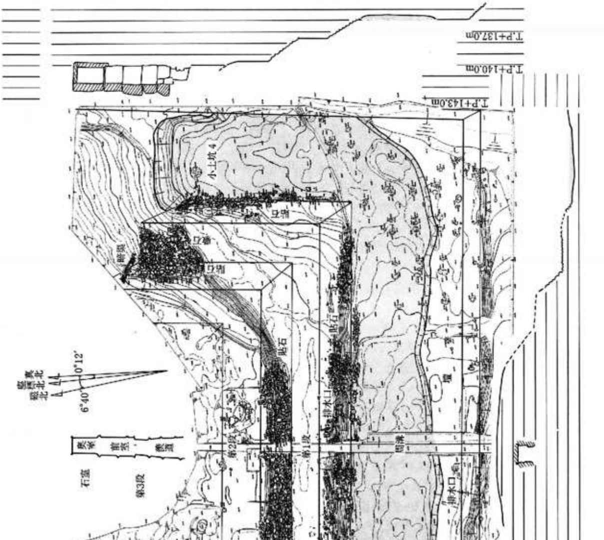
アカハゲ古墳は1965年に石室内部の調査が行われ、埋葬施設は花崗岩切石を組み合わせた横口式石槨で、奥室（長さ2.3m、幅1.5m、高さ1.1m）、前室（長さ3.36m）、羨道（長さ4.0m）からなり、その全長は9.66m、中軸線は磁北に対し北で13°東に偏ることが判明し、床面は流紋岩質溶結凝灰岩（通称、榛原石）が敷き詰められ、羨道は礫敷き、入口は人頭大の石を積み上げて閉塞されていた。遺物としては、羨道や前室で木棺の角形釘4本、鉄鋌断片3個、漆塗籠棺片約500点、ガラス製扁平管玉８点と断片７点、黄褐釉有蓋円面硯断片３点が出土した。年代は石室構造や遺物から７世紀第３四半期とされている。しかし石室外部の調査は行われなかった。今回の調査は圃場整備の範囲に含まれる古墳外部の遺存状態を把握することを調査の主眼とした。

地元では1940年代には石室の天井石をはじめとする石組みが露呈していた状況であったといわれている。つまり石室を覆う盛土が必ずしも本来の墳丘盛土を反映するものではなかったのである。そのうえ前回の調査以後石室周辺で大規模に陶磁がなされたため墳丘第３段の残存状態はよくない。今回判明した石室の石組みの一部の変形、使用石材の欠如などはそれらが原因であると考えられる。

古墳は、東と西を谷地形によって限られた東西85.0mの間に、北東から南西に下る尾根の斜面を利用して築かれ、その範囲は東西約70m、南北40m以上に及んでいた。墳丘は３段に築成する横長の方墳で、高さは７m以上、前面の墓を含めると９m以上あった。墳丘の東西長は、第１段約44.6m、第２段約33m、第３段約22mとなる。墳丘各段の斜面には石を貼り、上面には石を敷き詰めている部分があったので、墳丘は築造時、全面石に覆われていたようである。墳丘第３段の内部に設置された石室への水の浸透を防ぐため、墳丘第２段上面の東西には暗渠を設けて段下に落とし、この排水を受ける浅い溝が墳上面では墳丘裾の三方にコの字形となって取り囲むように設けられ、それによって生じる滞水を処理するために、さらに墳の南縁に２個所暗渠が設けられている。墳丘２段上面の東西の暗渠は、墳丘第３段北側でかつての山頂から下る尾根を東西に断ち切った堀削からの水の浸透を石室の東西両側に排除するためにも、また墳南縁の暗渠は墳上面の周溝底面から南の墳下に傾斜するように築かれているので、周溝の滞水を排除するために設けられたと考えられる。このほかにも墳丘第１段傾斜面にも排水口の痕跡が認められている。古墳西半は調査以前から水はけが悪く常に湿った状態であり、西側谷地への地下水脈の落下とも関連してこの付近の排水にはかなり工夫を凝らす必要があったと思われる。このことは墳を築いた後、墳丘第１段構築までに、山手から西側谷地にかけて激しい流水があり、この流水によって削り取られた墳の盛土を再度埋め戻していることからも推測できる。

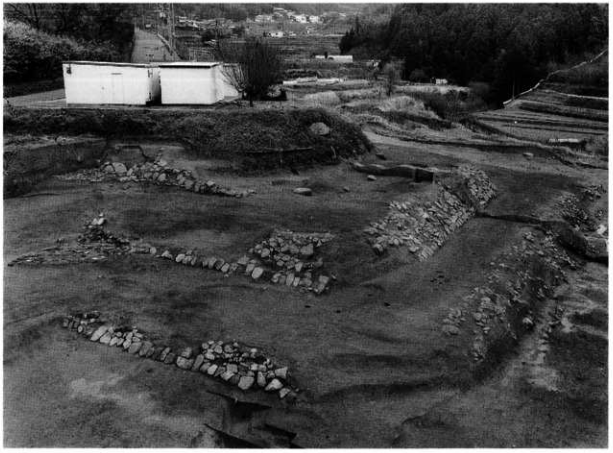
古墳の位置する尾根の南斜面では平石川の蛇行部を東西に断ち切る改修工事が予定されていたため、この部分約1700㎡を調査した。その結果、飛鳥・奈良時代から中世に及ぶ遺物を包含する斜面堆積層を確認し、この層下では2間×3間（約20㎡）の南北方向の掘立柱建物1棟、不定形土坑２、ピットなどを確認した。中世以来の棚田造成によって相当削平されているため、建物の全数は掴みかたいが、ピット、土坑には風倒木の跡となるものが多いことからしても、比較的小規模な集落跡と考えられる。

平石谷では谷の入口から谷奥に向かって、古墳時代後期の群集墳から終末期といわれる飛鳥時代の大型方墳が相次いで築造されていったことが明らかになりつつある。これまでの調査の経験から、古墳の外形は現在の棚田の形状によくとどめられていることも分かってきた。



第８図　アカハゲ古墳平面・断面図

アカハゲ古墳全景（南より）



第９図　アカハゲ古墳全景（南西より）

第10図　アカハゲ古墳排水施設

たかつきじょう
高槻城跡（０３００８）

（１）高槻市城内町
（２）府立槻の木高等学校音楽室建設
（３）泉本知秀

今回の高槻城跡発掘調査は大阪府立槻の木高等学校（島上高等学校と併設中）が音楽室建設を計画したことによる。

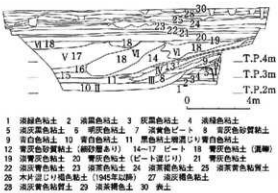
高槻城跡の本丸は現在府立高等学校の敷地内である。高校敷地の北東角部に花壇がつくられている場所がありそこが建設地に選ばれ、南北方向、長方形平屋建ての音楽室建設が決定された。その北西部横には高校の正門がある。

当然のことながら建設予定地は本丸内にあたると推定されていたため試掘を行わず機械掘削30cm、人力掘削50cmで設計、工事発注されて調査を開始した。土置きの関係で南北にわけて南側のA区から発掘を開始した。A区の中央には東西方向に径20cmの水道管が敷設されておりまた南東角にはガス管が数本埋設されていたためその部分ははずして設計深度まで掘り下げたが城に関係する遺構は見つからなかった。壁面に断面観察を兼ねて側溝を掘ったが遺構は検出されなかった。水道管、ガス管との関係もありA区はその時点で中止し、反転して北半部のB区の調査を行った。

ここでも設計深度では城に関連する遺構は見つからなかったためバックホーで２カ所、深さ４～５mまで試掘を行った。すると、底に近いあたりから瓦の破片、陶器の破片が数点出土した。遺物の出土層はヘドロ状態のビート層と青灰色の粘土層であったため堀跡と判断した。

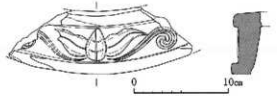
そこで設計変更をし、B区内を約90㎡分深掘りした。その結果、現地表下５mあたりで土層が淡緑色粘土層となり堀の底と判断された。堀の埋没過程はⅠ～Ⅵ期に大別される。Ⅰ～Ⅱ期は今回の調査区内では遺物が出土していないため断定はできないが高山右近の時期前後と推定される。Ⅳ期の層からは江戸時代初期の瓦が出土した。これは元和三年（1617）の土岐定義の改修期と推定される。同層中には室町時代の瓦も混在し、また金箔平瓦片１点が出土した。金箔瓦は豊臣秀吉の高槻城直轄時代に属するものであろう。Ⅵ期は明治七年（1873）の城破却に伴うもので、一気に埋め立てたと判断される。この層から永楽保全が築窯した窯関連遺物等も出土した。本丸の堀肩は調査区の少し西になる。

第11図　高槻城跡略図



1 淡緑色粘土　2 淡黒色粘土　3 灰黒色粘土　4 淡緑色粘土
5 淡灰黒色粘土　6 明灰色粘土　7 淡黄色ビート　8 青灰色砂質粘土
9 青白色粘土　10 青白色粘土　11 黒色粘土混淡じり青白色粘土
12 青灰色砂質粘土（細砂層あり）　14～17 ビート　18 青灰色粘土（黒褐）
19 淡青灰色粘土　20 青灰色粘土（ビート混じり）　21 青灰色粘土
22 淡灰青色粘土　23 淡黒色粘土　24 淡黒褐色粘土　25 淡黒黄色粘質土
26 木片混じり褐色粘土（1945年以降）　27 淡灰褐色粘土
28 淡灰青色粘質土　29 淡灰褐色土　30 表土

第12図　堀土層断面図



第13図　金箔瓦実測図

うりわりきた
瓜破北遺跡（０３００９）

（１）大阪市平野区瓜破西１丁目
（２）府営瓜破西住宅建て替え
（３）大槻康宏

１．はじめに

調査地は大阪市平野区の南西部に位置する。畿内の弥生遺跡を代表する瓜破遺跡の北西に接した瓜破北遺跡とその縁辺に当たる。瓜破北遺跡はこれまで、弥生時代前期の土坑・中期の大溝・後期の竪穴住居や倉庫、古墳時代初頭の方形周溝墓などが検出されている。

調査地は現在府営瓜破西住宅の中層住宅地であり、住宅地の東半が瓜破北遺跡の範囲内である。平成11年の第1期高層住宅建て替え工事実施時の本府教育委員会の立会では遺構・遺物ともに確認されなかった。今回、全面建て替えが計画され事前の確認・試掘調査を実施した。

第14図　調査区位置図

２．調査の概要

府営住宅地内の公園等に6ヶ所（１区～６区）の確認・試掘調査区（5×5m・4×4m）を設定した。調査スペースや期間に制約があり主に断面観察により遺構・遺物の有無の確認に努めた。

調査地は現府営住宅建設以前は水田で、全体に１m程の盛土をして住宅地を造成している。

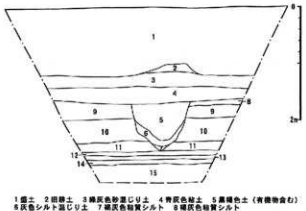
５ケ所の調査区のうち東半に設定した調査区で遺物包含層を確認した。また遺構も確認した。

１区では中世と思われる水田畦畔、弥生時代後期の土坑あるいは落ち込みと思われる遺構を確認した。５区では弥生時代後期の土坑を検出した。６区では遺構は確認できなかったが、５区の遺構面と同一と思われる面を確認した。

２区は旧耕土直下が厚さ0．1～0．2mの粘土層でGL－3m以下まで水平堆積する。包含層は確認されなかった。３区・４区は旧耕土直下が厚さ0．2～0．3mの粘土層でGL－2．5m付近まで水平堆積する。水田面の可能性はあるが畦畔等は確認できなかった。その下層は砂礫層となる。

３．まとめ

以上の成果から、府営住宅地全域のうち東半部に遺構の存在が認められ、西半部は谷状地形であり遺



第15図　５区南壁断面図

構が存在しないと思われる。その境はほぼ瓜破北遺跡の周知範囲と重なると思われる。

調査区が限られまた狭小なため、今回の確認・試掘調査では詳細の把握にまでは至らなかったが、府営住宅の建て替え時には発掘調査を実施することで協議がなっており、本遺跡の西端部分の様相が明らかになるものと思われる。

第16図　５区調査状況

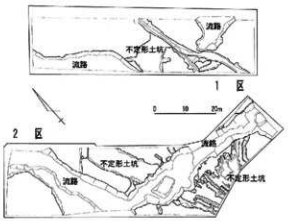
おおまち
大町遺跡（０３０１３）

（１）岸和田市大町地内
（２）府営久米田第２住宅建て替え
（３）大槻康宏

１．はじめに

調査地は岸和田市の市街地のほぼ中央に位置する。行基が築造したと伝えられる久米田池の樋門より流出する天の川の右岸に立地し、現標高23m前後を測る。久米田古墳群や久米田寺が所在する丘陵の北側斜面裾部に当たる。

当初、調査地は遺跡範囲外であったが、平成13年７月に実施された本府教育委員会による試掘調査において遺物包含層が確認された。これにより周知の大町遺跡が南側への範囲拡大がなされた。



第17図　調査区平面図

２．調査の概要

府営住宅第１期建て替え事業地の内、住棟２棟と機械室部分の調査を実施した。

周辺一帯は条里型地割りをよく残している。調査地も全体を覆う住宅地造成時の盛土を除去すると以前の地目の水田となる。

旧耕土の下層は段丘谷上に堆積する厚い粘土層あるいは埋没流路の砂礫層となる。流路は概ね南から北へ蛇行しながら幾重にも走る。いずれも久米田池あるいは久米田池築造以前の谷地形から流出する河道や広い氾濫原の一部である。

調査区周辺の水田はこの埋没流路上面の砂礫層にいわゆる天地返しを施し、流路近辺の粘土を床土として貼っている。流路肩部分には大規模な不定形土坑が点在し、粘土混じりの砂礫層をその埋土としている。この土坑の出土遺物からおそらくは近世以降に水田が造成されたものと思われる。

今回検出した流路はいずれも掘削・浚渫といった人工の管理を受けた痕跡は認められない。久米田池の築堤とそれに伴う流出水路の固定化以前の自然の流路と思われる。

第18図　１区全景

第19図　２区全景

いずれの流路もその時代は明確ではない。１区の流路からはほとんど遺物は出土しなかった。２区を縦断する流路の上層からは古墳時代中期の土器がかなり大量に、また最下層からは古墳時代前期の土器が出土している。

３．まとめ

府営住宅の建て替えに伴い範囲拡大された大町遺跡南側の今回の事前調査の結果、調査地周辺は自然流路が重複する氾濫原であることがわかった。また、現行条里に沿った水田として利用されるのはおそらく近世以降であるという新知見を得た。

今後継続される調査により、今回明らかにできなかった久米田池築造以前の様相や築造時期に迫ることが可能と思われる。

なかはた
中畑遺跡（０３０１４）

（１）高槻市大字中畑
（２）農地還元資源利活用事業「樫田地区」
（３）奥　和之

はじめに

中畑遺跡は、高槻市の市街区域から約12km離れた大阪府の北東部、北摂山地の穏やかな山々に囲まれた標高350m前後の小規模な山間盆地に立地する。中畑遺跡周辺の遺跡については、当該事業により田能盆地内の過去４年間の調査が行われ、本遺跡を含め、北摂山地内の遺跡の状況が徐々にではあるが、明らかになってきている。

調査の成果

今回の調査において後期旧石器時代の翼状剥片、縄文時代早期ではトロトロ石器、有舌尖頭器などが出土した。これらの時期の遺構は検出していないが、上記の時代にも人々が周辺で生活していたことが明らかになった。

大半の遺構の時期である中世については、最も広範囲に調査を実施した中畑西地区の遺構配置からみた集落の状況について記したい。

中畑西地区は、北の山塊から南に下る丘陵縁辺部に存在する。調査区は、７区が西端、８区が東端に位置し、その中央付近に９、10区がある。遺構は、屋敷地と推定される遺構群が７区、８区の一部で確認した。しかし、同一調査区内の別の区域、同じ丘陵縁辺部中央付近に存在する９、10区においては、顕著な遺構は全く検出されなかった。

屋敷地の遺構配置は、母屋と推定される規模の大きな建物と、１棟ないし２棟の作業小屋ないしは物置小屋と推定される小規模な建物で構成される。そしてそれらの周囲を、柵、溝、土坑などによって取り囲んでいる。

屋敷地の規模は、７区が約150㎡、８区が約182㎡を測り、建物の数、規模とも８区の屋敷地が大きい。これらは地区内での階層差を表しているものと推察される。時期は、いずれも13世紀前半代と推定される。

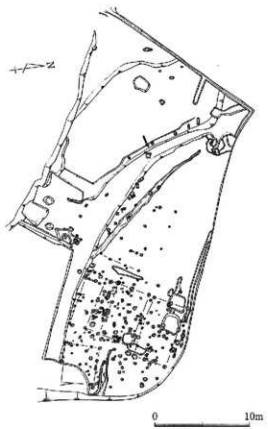
このことから、中世における現風景は、散村といった状況を醸し出し、現在の中畑集落の在り方とほとんど変わりないといえる。

まとめ

中畑地区の西側に存在する田能盆地内で検出した遺構の時期は、奈良末から平安初期を上限とし、13世紀前半代までである。これらのことから、田能盆地の開発は、奈良時代末から平安初期にかけてと想定している。しかし、盆地の規模では劣る中畑盆地内での遺構の大半は、13世紀前半代が中心である。これらの中には若干遡る可能性のある遺物も出土しているが極めて少ない。

これらのことから、中畑盆地においては、13世紀前半以降に開発が進んだことを示している。両者の開発時期の違いは、盆地の面積の違い、交通の要所、標高差から来るものであろうか。

これらの調査成果は、この周辺地域の歴史を考える上で、また北摂山地の開発の状況を知るうえで貴重な資料を提供したものといえる。



第20図　中畑遺跡８区平面図

しょだいなかまち
招提中町遺跡（０３０１５）

（１）枚方市東牧野町
（２）府営東牧野住宅建て替え
（３）井西貴子

はじめに

昨年度に引き続き、住棟部分と外周道路部分の調査を実施した。住棟部分の調査区は、３区（02026）の東、4区の北東に位置する。

本遺跡は枚方市東牧野町・招提中町町・招提平野町に広がる、弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。標高22mの台地上に立地しており、約200m南には穂谷川が南西から北東に流れ淀川と合流している。本調査区は穂谷川の右岸沿いに位置する。

基本層序

第０層　盛土層
第１層　近世耕土・床土層
第２層　包含層　にぶい黄褐色（10YR4/3）土、黒褐色（7.5YR3/2）土。層厚は約0.1～0.15m、弥生時代から中世にかけての遺物を包含している。
第３層　整地土層　暗褐色（10YR3/3）土
第４層　自然流路埋土（上層）　弥生時代から中世にかけての遺物が出土している。弥生時代の遺物の比率が高い。
第５層　自然流路埋土（下層）　褐色（10YR4/4）粘質土、灰黄褐色（10YR4/2）土をベースとしており、それぞれ地山ブロック土を混入している。遺物は弥生土器を検出した。
第６層　地山層

概観

方形周溝墓・竪穴住居（古墳時代初頭）・掘立柱建物（平安時代から中世）・土坑（弥生時代から中世）などを検出した。

地形　府営住宅の敷地部分が最も高い。北側は、北に落ちる大きな（深さ３m以上）谷を検出し、埋没時期は古墳時代前期以降である。東は、平成11・12年度に実施した調査区が位置し、弥生時代から中世までの遺構・遺物が確認された。南は、穂谷川に向かって現地形が下がっており、旧地形も同様自然流路が確認された。西側は、府営住宅の敷地と民地の境界である現道部分の調査で、西に落ちていく谷を確認した。遺跡は東側から延びてくる台地上に弥生時代から中世まで、部分的に中世の整地土が残っているが、ほぼ一面で確認される。

第21図　方形周溝墓遺物出土状況

第22図　竪穴住居１

第23図　竪穴住居内土坑遺物出土状況

第24図　竪穴住居２

ふちゅう
府中遺跡（０３０１７）

（１）和泉市府中町１丁目地内
（２）国道４２１号線（和泉中央線）拡幅
（３）阿部幸一

02年度に調査できなかった第２調査区と第３調査区の間、延長約80mで調査を行った。

02年度の調査では、第３調査区で弥生時代中期の方形周溝墓２基が検出されている。また、阪和線側の第２調査区では、弥生時代後期頃の河道や、土坑が検出されている。

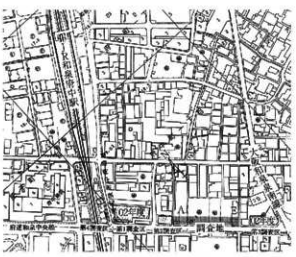
今回の調査でも弥生時代中期以前の河道、弥生時代中期の方形周溝墓、弥生時代後期の土坑、古墳時代以降の溝、ピット、土坑などを検出した。

方形周溝墓は東端のＥ調査区、02年度第３調査区の15m北西で検出した。周溝の南西隅を検出したのみで、主要部分は調査区外にある。溝内から底部を穿孔した弥生時代中期後半の土器が出土している。

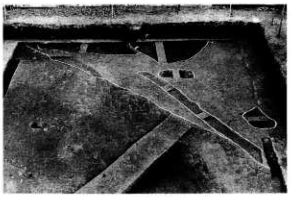
河川は、周溝墓の約５m北側で左岸側肩部を検出した。Ａ調査区でも同様に左岸側肩部を検出したので、調査地南側で湾曲し、北西流していると考えられる。周溝墓側の河道上層に堆積する灰白色のシルト質土から弥生時代中期の土器や、縄文時代晩期の土器の細片が出土している。いずれも微小破片で、遺存状態はきわめて悪い。Ａ調査区で出土した流木の^{14}Ｃ年代測定を行い、Ｂ.Ｐ.2800±の数値を得ている。

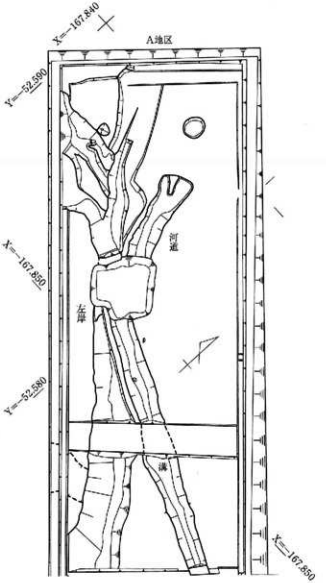
土坑はＡ調査区で検出した。河川活動が終息に向かう過程で、砂層と黒褐色粘土が複雑に堆積する時期に造られた土坑で、弥生時代後期の土器が出土している。

今回の調査区は河道が中心で方形周溝墓は来年度以降に調査する予定で、02年度第３調査区から続く方形周溝墓群の様態を把握することが期待される。



第25図　調査位置図


第26図　周溝墓と河道



第27図　遺構平面図

やすまつだ
安松田遺跡（０３０１８）

（１）泉佐野市東羽倉崎町
（２）府営羽倉崎住宅建て替え
（３）杉本清美

安松田遺跡は、泉佐野市西部の平野部に位置する遺跡で、平成13年度に実施された埋蔵文化財の試掘調査によって確認された新規発見遺跡である。関西国際空港を対岸に望む海岸線から約１km離れた沖積段丘上に立地している。

今回の調査は、府営羽倉崎住宅建て替えに伴なう発掘調査で、住棟部（1901㎡）を２区・３区、電気室（234㎡）を１区、集会場（234㎡）を４区とした。調査面積は2369㎡である。

調査は、現地表面下約0.8mを重機で除去した後、人力によって遺構・遺物の確認につとめた。

機械掘削により旧耕土を除去すると、遺構面が広がる。後世の耕地化に伴い遺構掘込み面は削平を受けているものと思われる。

遺構相当層は、青灰色粘質土層を切込んでおり、深さは約10～60cmを測る。掘削の深さは青灰色粘質土層の厚さにほぼ相当することから、青灰色粘質土を掘削した粘土採掘跡と考えられる。

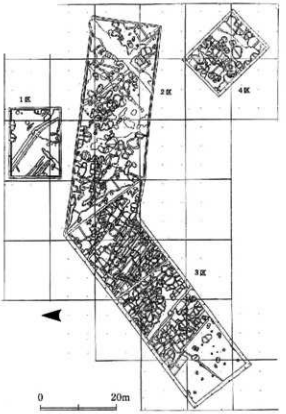
埋土は、①黒褐色、茶色、黄褐色、灰色等のブロック土を含む粘質シルト層、②砂を含む黄褐色砂混じり粘質シルト層、③下層に黒褐色及び黒色土が帯状に堆積する粘質シルト層に大別することができる。いずれも粘土採掘後すぐに埋め戻されたものと思われる。また、③を埋土とする遺構が②を埋土とする遺構に切られる様相を示すことから、埋土タイプによる時期差がうかがえる。

検出した粘土採掘跡は、南北方向の方が直線を成し、おおむね長辺約２～４m、短辺１～2.5mの長方形状に近接して連なり掘削している状況が看取できた。中には単一で径約２m程の楕円形状に掘り窪めた形状を示すものみられた。長方形状の粘土採掘跡にはわずかではあるが、近世代の陶磁器片などが含まれていた。楕円形状の粘土採掘跡からは高台を有する瓦器椀や土師器皿などが単品で出土するものもみられた。掘削形態による時期差があるものと推測される。採取した粘土をどの様に利用されたのかは不明である。

遺構内からわずかに遺物が出土した。近世代の陶磁器、擂鉢、羽釜などの生活雑貨片や瓦などが主を成すが、高台を持ち内面に暗文を呈する瓦器椀や土師質小皿、土師器皿、中国製青白磁片、さらに大小の土錘などが幾つかみられた。

検出した遺構は、粘土採掘跡が大半を占めるが、畦畔を境にして、ほとんど遺構が検出されない箇所もあることから、土地利用の方法にも違いがあると考えられる。調査地周辺は、中世代に描かれた『和泉国日根野村近隣絵図』によると、村落に近い荒野地辺にあたる。いつ頃からどの様に土地の開発や利用がされてきたのかを解明することが今後の課題となるだろう。

第28図　周辺の遺跡と調査区位置図



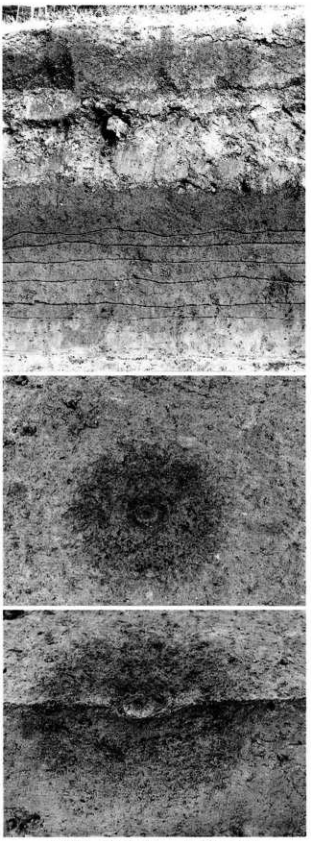
第29図　遺構平面図

がくえんちょう
学園町遺跡（０３０１９）

（１）堺市学園町1番1号
（２）大阪府立大学工学部新学舎建設
（３）藤澤真依・枡本哲

ニサンザイ古墳後円部東約350mにあたる大阪府立大学構内の新学舎建設予定地内試掘調査（平成15年5月28日～30日）結果に基づき、遺物包含層の分布する範囲100㎡を発掘調査した。グランド盛土（60㎝）・耕作土（30㎝）の下に４～５層の遺物包含層が堆積する。いずれも中世の耕作土と考えられ、層毎に掘り下げた結果、その第２層上面で銅銭が出土した。腐蝕によって土が変色し一見するとピットのように見える。しかし変色の輪郭をおさえた検出面と同一レベルで出土している状況からみて、新たに耕土を入れる行為に伴って銭貨を儀礼的に用いた痕跡と考えたい。中世耕作土の最下層は上位の包含層とは違って暗褐色を呈する。この層からは土師器・須恵器・瓦器・土師質小皿・羽釜・円筒埴輪片などが比較的多量に出土した。当地が中世に初めて耕作地として開墾され始めた際、周辺の古墳時代以降の包含層も削られ、それが客土として調査区付近にもたらされた結果ではないかと考えられる。

第30図　調査区位置図



第31図　調査区土層・銭貨出土状況

とよなか・いたはら

豊中・板原遺跡（０３０２０）

（１）和泉市肥子町地内
（２）和泉中央線立体交差
（３）亀島重則

調査地は現道の北側、国道２６号線との交差点（穴田交差点）の東約100mの地点から東へ府中病院に至る延長約150mの区間を対象とする。里道・水路で限られた用地を東から第１調査区、第２調査区、第３調査区とした。調査面積は1,021㎡。

第１調査区中央から東部域で中世の柱穴・土坑が密集して検出された（第３面～第４面）。柱根の確認できるものもいくつかある。東端部では井戸が１基検出された。この井戸は20㎝大程の石を組み上げ本体を構成しており、底に曲物を置き、集水施設としている。井戸周辺は柱穴が希薄である。柱穴は夥しい数のため現時点で建物を復元できたものはない。柱穴面も複数あることからこの地域に継続して居住していたと推定される。東に位置する第２調査区との境界である里道・水路（条里地割の坪境）を越えると同時期の柱穴が少なくなることから居住区の一角を示すものとみられる。中央部では重複して約３mの広がりをもつ大土坑が検出され、中から瓦質羽釜が多量に出土した（第33図）。多量の羽釜を必要とし、その後投棄した背景が興味深い。調査区中央から西部で古墳時代前期の自然河川（幅約６m）を1条検出した。調査区東部中央では南北方向を採る幅1.5～2.0mの古墳時代中期の溝が検出された。第２調査区の西部では、小穴・土坑などが検出されるが密度は低い。逆に東部では中世の柱穴・土坑が多く出土している。いくつか柱通りを捉えられる例からすると条里地割に沿う方向を採ると考えられる。これに重複して弥生中期の溝・土坑・小穴などが検出された。溝は第３調査区の西部へと走る。中世・弥生期面の下層で縄文時代後期の河川（幅約７～８m）が検出された。河川周辺では微高地が形成されている。第３調査区の西部で鎌倉期の井戸（曲物で井筒を組み、板材で井桁を組む　第34図）が１基検出された。井戸の東周辺で柱穴が検出されており建物の存在した可能性もある。調査区の全域を蛇行しながら走る古墳時代中期の溝が１条検出された。この溝付近から滑石製双孔円板の破片が１点出土している。東部では先の溝に重複して落ち込み・大溝が検出されている。落込み埋土から須恵器大甕の出土時の際にも滑石製双孔円板が出土している。

第32図　第１調査区

第33図　瓦質羽釜出土状況（第１調査区）

第34図　井戸（第３調査区）

とうき・とうきせんづか

陶器遺跡・陶器千塚（０３０２１）

（１）堺市陶器北
（２）府営集落基盤整備事業「陶器北地区」
（３）山田隆一

はじめに

陶器遺跡は、陶邑窯跡群の北端に立地する。今回、須恵器工人の集落と古墳、奈良時代の集落、中世屋敷跡の４時期の遺構が確認された。

６世紀後半の集落

第４区で、掘立柱建物（建物５）１棟を確認した。柱穴は古墳周溝に切られる。柱穴出土遺物から６世紀後半である。第３・５区でも同時期の建物数棟、溝、落込みがあり、多量の生焼け、焼け歪みで廃棄された須恵器が出土した。南側丘陵の陶器南遺跡は、須恵器工人の集落だが、陶器遺跡でも同じ性格の集落が確認できた。

６世紀末の古墳

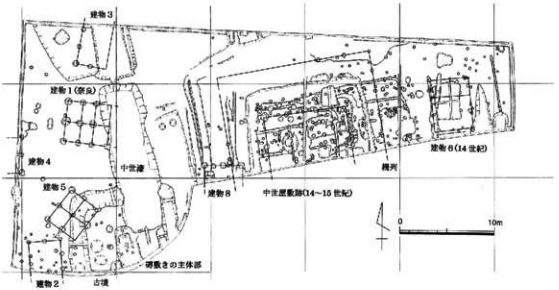
第４区の古墳は、新規発見で、陶器遺跡では初出である。方墳で、墳丘は東西約８ｍ、南北７ｍ以上で南側は調査範囲外にのびる。墳丘は、地山削り出しで、南側に盛り土が残存する。主体部は磚敷きで、10数例しか類例のない特殊なものである。破壊により構造は不明瞭である。主体部の周囲に穴が列状に確認でき、石の抜き取り穴とすれば、小さな横穴式石室状の構造である。周溝内から主体部と同質の磚と陶棺の破片が出土しており、主体部には陶棺が入れられたと考えられる。時期は、周溝下層で出土した須恵器から、６世紀末頃である。西方の精華高校、泉ヶ丘東中学の周辺は、陶器千塚古墳群であり、陶器遺跡にも古墳の広がっていたことが確認された。

奈良時代建物群と「泉」銘の須恵器

第４区で建物３棟を確認した。時期は柱穴出土遺物から、８世紀前半である。方位が同じなので、第５区の数棟も同時期と考えられる。なお、同時期の須恵器が、隣接する古墳周溝の上・中層から多量に出土した。中でも、「泉」の刻字のある横瓶は特筆される。「泉」は、地方行政単位の「和泉郡」、あるいは「和泉監（げん）」の可能性がある。

室町時代（14～15世紀）の屋敷跡

第４区で柱穴の集中する建物部分とそれをとり囲む半町規模の方形濠の西側、第５区で方形濠の北側を確認した。建物部分は、建替えが認められる。また幅0.5～１ｍの溝を巡らせるが、15世紀前半に埋没する。方形濠の西側は、幅４ｍ、深さ１ｍ程度である。内側数ｍは遺構が確認できず、土堤が築かれていた可能性がある。北側の濠では北西コーナーが確認され、地形から約50m四方の屋敷地と考えられる。東方には陶器城があり、周囲には同様の屋敷地が広がる可能性が高い。



第35図　陶器遺跡第4区遺構配置図（第３・５区は北方に隣接する）

しんかみこさか
新上小阪遺跡（０３０２２）

（１）東大阪市新上小阪
（２）府営東大阪新上小阪住宅建替
（３）岩崎二郎・一瀬和夫

はじめに　河内平野南半部には古代集落が点在する。若江郡錦織郷に属したであろう新上小阪遺跡の周囲を見ると、北東の瓜生堂遺跡には８世紀の掘立柱建物群。南東の美園遺跡には７世紀代の遺物の出土、同じく萱振遺跡には８世紀の掘立柱建物群の検出や瓦の出土がある。また、東側を南北に貫く河内街道と楠根川沿いに若江寺や西郡廃寺、巨摩廃寺といった寺院が並んだと考えられる。

調査の概要　本調査地点は、平成13年度に（財）大阪府文化財調査研究センターが行った第１期高層住宅部分に伴って南北それぞれ１つずつ設置される地下雨水貯留槽部分にあたる。

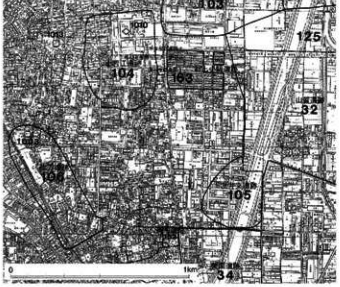
南側を１区、北側を２区とした。ここでは、１区の基本層序を概述する。現地表はT.P.4.3mで、地表下0.7mまで盛土、下に旧耕土があり西に下降する（第２遺構面）。その下は調査区南東に島畠の高まりがあることから、その部分は暗黄灰・褐色の粘質シルト・粗砂を中心とし、基本的には３層からなる盛土が0.5mあり、低いところでは0.1mの厚さとなる（第３遺構面）。その下は灰オリーブ粘・砂質シルトを基本とし、下ほど砂質がかり、調査区南側で発達する（第４遺構面Ａ・Ｂ）。黄褐色粘質シルトを基本とし、これも下部程、砂質がかる（第４遺構面Ｃ・Ｄ）。第４層は0.1～0.5mの厚さがあり、相対に南・西側部分が厚くなり、T.P.3.0mを前後する。その下は河川状堆積となり、上部は0.3～0.5mの厚さの灰・灰オリーブ系の色調に粘質シルト～細砂主体の上質となる。下部はオリーブ黒の粘質シルト～微砂が主で、足跡がよく残る（第５遺構面）。

これより下は、細砂をはさみ、灰色を基本とした粘質シルトの上部からT.P.2.0m前後に歪って粗砂となる。

各遺構面はセンター調査分の第１～５面に概ね相当するが、ここでは８・９世紀の掘立柱建物を検出した第４遺構面を紹介する。１区は５面に分け、２区は４面に分けて調査した。

この面の掘立柱建物群は、大きく３期に分かれる。最も古い１期は第５層の砂が微高地状に北西方向に張り出す１区を中心に確認できるが、削平がはなはだしい。掘方は一辺0.6m前後の長方形気味のもので、地形に合わせるためか北西―南東方向に軸が振れ、柱間は1.5～2.3mである。

２・３期はわずかに東に振る程度で、南北軸にそろう方形の掘方である。２期は３期に比べ、掘方は一辺0.6～0.8m前後と大きく、柱間は1.9～2.1mである。２区の南東隅で検出した通り柱には、同じ建築



第36図　調査区位置図

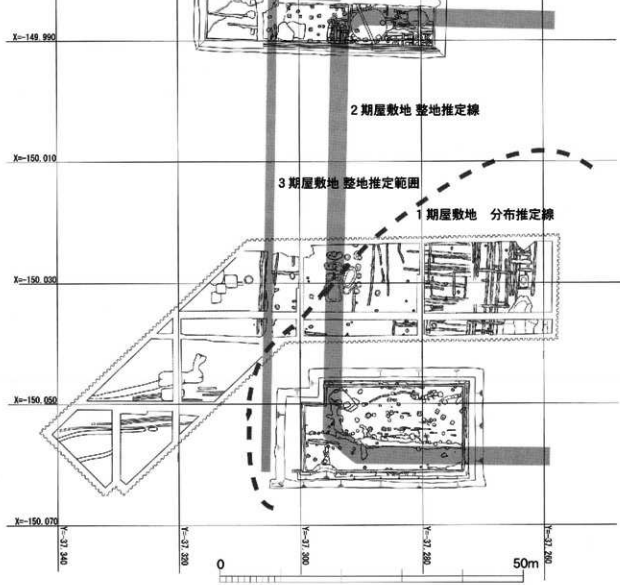
第37図　２区垂直写真

第38図　１区垂直写真

材を分けて礎板として用いる。この期の屋敷地の整地範囲は図にある通り、南北65mで東に拡がり、砂を主体とする。これに伴い、1区では南・西を、2区では北を区画する溝を検出しており、最も深い2区東西溝の東側では0.45mある。こうした溝は埋没後も同様な位置で井戸・土坑・落ち込みといったものの掘返しがある。

3期は一辺0.6mのやや小ぶりの掘方で、柱間は1.8～2.2mである。2期の区画より、主に西辺を10m程、張り出させて整地することで拡張する。これに伴う特徴は、2区東側、整地区画の北西隅において、軟弱な粘性の高い粘質シルトがベース面であったためか、2期整地範囲の外縁に5～10mにわたって8世紀の土師器・須恵器・瓦片を中心として、それらをバラス代わりに敷いた状況で出土していることである。

各期屋敷地の年代　1～3期の屋敷地には、こうした変遷を追えるが、2・3期の間にも、2期西辺の両隅の溝上にも遺構が重なることから、徐々に敷地を拡げていったことがうかがえる。センター調査分の第4b面掘立柱建物はこの上部で検出され、掘方内出土遺物から廃絶は9世紀中頃である。今回調査分の掘方形状からも2期は9世紀前半、3期は9世紀中葉～後葉を中心としたものと考えられる。また、1期は整地土内出土遺物より、8世紀後半を中心とするであろう。



第39図　古代面（第4遺構面）検出状況（北東から）

萱振遺跡（０３０２６）

（１）八尾市萱振7−42
（２）府立八尾北高校校舎建設
（３）横田　明

萱振遺跡は1983～87年に実施された高校建設に先立つ発掘調査で、弥生後期の集落跡、古墳前期の埋没古墳等が発見されている。萱振一号墳と命名された古墳は、河内低地部で最大級の古墳であり、多彩な形象埴輪と共に貴重な資料となっている。今回、校舎が計画され、遺跡範囲内であることから発掘調査を行った。結果、弥生時代後期の集落の縁辺部が検出され、遺跡の状況が一層明らかになった。

調査成果

堆積土層は粘土と砂やシルトの互層で、遺構面も、砂やシルトに被覆されている。

（第１面）基準高T.P.＋4.5～4.7mで、東西、南北方向の耕作溝と、浅い自然流路からなる。流路を境に西側は南北方向、東側は東西方向の耕作溝が主体となる。

（第２上面）基準高T.P.＋4.3～4.5mである。遺構は散漫で、西北～東南向きの溝が検出された。（第２下面）基準高T.P.＋4.0～4.3mである。壺や高杯等を含んだ流路の他、遺構面上におかれた土器群等を検出した。弥生後期～庄内期が主体で、調査区南端で、弥生後期の自然流路が検出されている。

2053-溝　調査区南西端で発見されたＬ字形の溝である。幅2.5～3.5m、深さは20～30cmで、溝内には灰黄色～青緑灰色系統のシルトが堆積する。遺構内で奏約２個体分が出土している。弥生後期の自然流路の北縁で、周溝状遺構の一部であった可能性もある。

2051-土坑　調査区中央部にある卵形の土坑で、東西60cm、南北45cm、深さは55cm、灰白～青白色のシルトが堆積しており、底部には木片などの植物遺体が目立つ。

土器集積遺構　調査区全域に散在するように土器の集積がみられる。特別な掘り方は認められず、地面に直に置いたようにみられるものが多い。器種としては高杯や壷などが多く、故意に割られたようなものが目立つ。

（第３面）第４層上面の遺構群で、基準高T.P.＋3.8～4.2mである。細い溝状遺構や、不定形の落ち込みを主体とする弥生時代後期中心の遺構群である。また後期よりは遡ると思われるが、調査区南西隅では円形竪穴式住居が見つかっている。

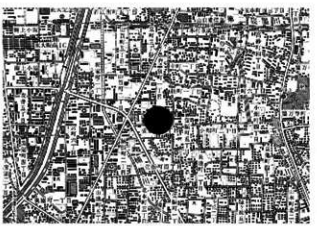
（第４面）灰色系統のシルト層上面の遺構群で、基準高T.P.＋3.6～3.8mである。浅い流路や不定形の落ち込みが主体で、遺物は出土していない。

（第５面）オリーブ色の粘土層上の遺構群で、基準高はT.P.＋3.6mを前後する。覆土から遺物は発見されておらず時期など不詳である。調査区の南西端と北東端とで自然流路が発見されている。

（第６面）シルト混りの黒色粘土層を基盤とし、基準高T.P.＋2.7～2.8mで、遺物・遺構は検出していない。東端で南北方向の流路の痕跡が発見されている。

まとめ

第１次調査で発見された遺構群の続きを検出したものの、散漫で、集落の周縁部の様相であった。第1次調査区と今回の調査区との間には弥生時代後期の自然流路が流れており、流路を境に遺構の様相に変化が見られる。集落の北限であった可能性がある。



第40図　調査区位置図

第41図　遺物出土状況

ながいいけ
長池窯跡群（０３０２８）

（１）河内長野市小山田町
（２）府道大野天野線道路改良事業
（３）河内長野市教育委員会　鳥羽正剛・大阪府教育委員会　西口陽一

１．調査方法

工事対象区域に調査区(トレンチ)を５箇所設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しつつ、機械・人力で掘り下げ、確認調査を実施した。

２．調査結果

各トレンチの基本層序、遺構・遺物の出土状況は次のとおりである。

第1トレンチ(2m×2m)は、①耕土(層厚40cm)、②床土(同5cm)、③にぶい黄橙色礫混じり粗砂(同10cm)、④黄褐色礫混じり粗砂(同10cm)であった。遺構・遺物はともに検出されなかった。

第２トレンチ(2m×2m)は、①耕土(層厚20cm)、②黄灰色礫混じり細砂(同5cm)、③床土(同15cm)、④黄褐色礫混じり粗砂(同30cm)であった。遺構・遺物はともに検出されなかった。

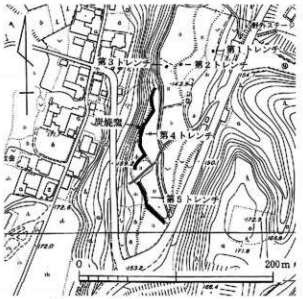
第３トレンチ(2m×2m)は、①表土(層厚30cm)、②耕土(層厚10cm)、③床土(同10cm)、④黄褐色礫混じり細砂(同25cm)であった。遺構は検出されなかったが、遺物は③層から近世の磁器碗が出土した。

第４トレンチ(2m×145m)は、①耕土(層厚20cm)、②灰白色礫混じり細砂(同5cm)、③床土(同5cm)、④にぶい黄橙色礫混じり粗砂(同10cm)であった。遺構は炭焼窯2基が検出されたが、遺物は出土しなかった。

第５トレンチ(2m×49m)は、①耕土(層厚35cm)、②黄灰色礫混じり細砂(同5cm)、③にぶい黄橙色礫混じり細砂(同20cm)、④にぶい黄色礫混じり粗砂(同10cm)、⑤にぶい黄色礫混じり細砂(同20cm)であった。遺構・遺物はともに検出されなかった。

３．措置

以上の調査結果を踏まえ、土木側に、今回の確認調査で発見された炭焼窯２基については、記録保存の措置を完了したので、府道建設工事に際して、発掘調査の必要はないこと、第４トレンチ東側の丘陵裾部で平安時代にまで遡る可能性が考えられる炭焼窯の存在が確認されたので、府道建設工事で炭焼窯を損壊することのないように保存に協力願うことを回答した。



第42図　長池窯跡トレンチ平面図

第43図　トレンチ調査の状況（南から）

第44図　窯状遺構検出状況（東から）

うえまつ
植松遺跡（０３０３２）

（１）八尾市植松町８丁目
（２）府営八尾植松住宅（建て替え）建築工事
（３）岩崎二郎・一瀬和夫

はじめに

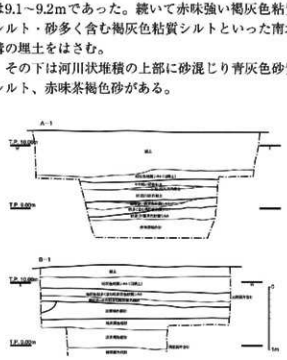
府営八尾植松住宅建築工事に伴って遺構・遺物有無の確認調査を行った。対象地は旧大阪中央環状線が西側にあり、西南に太子堂の交差点がある。この道を境に西側が太子堂遺跡、対象地及び東側が植松遺跡となる。以前の調査において、前者は鎌倉～古墳時代の遺物が確認でき、溝・落ち込み・土坑・井戸・柱穴などが検出される。後者は鎌倉～弥生時代で、溝・落ち込み・土坑・井戸・柱穴・欅・掘立柱建物など、さらに、南方の植松南遺跡でも鎌倉～弥生時代で、落ち込み・土坑・井戸・柱穴などである。

今回の調査では、現在ある建て替え前の建物と道路に制限され、掘削可能な北側３ヶ所、南側１ヶ所に調査区を設けた。Aタイプは一辺４m、Bタイプは３mの方形を基本型としたが、埋管や攪乱の障害があり、それぞれ変形した。

調査の概要

Ａ－１トレンチ　用地北西部分は地表面が10.25mであり、0.55～0.7mの厚さの盛土がある。下に暗灰色粘質シルトの旧耕土、そしてやや暗い灰色粘土・小石混じり灰色粘土・砂混じり灰色粘土の近世以降の耕作土ないしはその客土があり、その下面の高さは9.1～9.2mであった。続いて赤味強い褐灰色粘質シルト・砂多く含む褐灰色粘質シルトといった南北溝の埋土をはさむ。

その下は河川状堆積の上部に砂混じり青灰色砂質シルト、赤味茶褐色砂がある。



第45図　土層図

Ｂ－１トレンチ　用地南西部分の地表面は10.25mである。0.15mの厚さの盛土、暗灰色粘質シルトの旧耕土がある。下へ暗灰色粒多く含む暗茶灰色砂質シルト・暗灰色・灰色粒含む暗茶褐色細砂の近世以降の耕作土ないしはその客土で、土師器の細片を含む。下面の高さは9.4～9.65mで、調査区東端では南北細溝が認められた。これと河川状堆積の上部の間には淡茶褐色細砂がはさまり、下に暗茶褐色粗砂、淡茶褐色粗砂があり、古墳時代頃の須恵器甕片含んでいる。

まとめ

今回の調査区はＡ－２・Ｂ－２トレンチも考慮に入れると、下層も含め全体に南半部が高く、北端部と0.5mの比高差が見られた。また、周辺既往調査区とは、その層順が盛土・旧耕土・茶味を帯びる灰色の粘・砂質シルトの整地層、茶褐色の細砂～粗砂の河川状堆積物と同様な傾向が見られる。このことから前者の下面には鎌倉～古墳時代の遺構面相当層が残り、それらに伴う遺構が多数存在することになる。また、さらに下には弥生時代前・中期の遺物を含んだ暗緑灰色・黒灰色粘土が存在することが予期できる。その高さは北の1990年調査区から弥生時代中期が6.65～7.3m、東南東の2002年調査区から弥生時代前期から古墳時代が6.0mとなり、その間に本調査地がはさまれることになる。

第46図　調査区位置図

しもいけだ
下池田遺跡（０３０３６）

（１）岸和田市下池田町
（３）府営久米田第4住宅建替
（３）藤澤真依

調査区は幅約20mで東からほぼ西に約50mのところで西北に屈曲して約50mの逆「く」の字形と15m×20mの長方形との２区である。

調査区全体では西が高く、東が低くなっており、「く」字の頂点付近が最も高く、西北・東に向かって順次低くなっていく。遺跡周辺は全体的には北方向へ下がっていくのであるが、久米田池から続く谷が東側を通っていることから、調査区では東側へも下がっていく。調査区西北端では水田造成時に削平され、旧水田耕作土直下は地山の黄色粘土または青灰色砂礫であり、遺構は検出しなかった。東側は旧耕作土の下に灰色粘土が堆積しており、黄白色粘土が続いていた。黄白色粘土の上面で遺構を検出した。

検出した遺構は弥生時代末から古墳時代初頭の溝・土坑・流路、平安時代の井戸・溝、鎌倉時代から室町時代の井戸・溝等である。

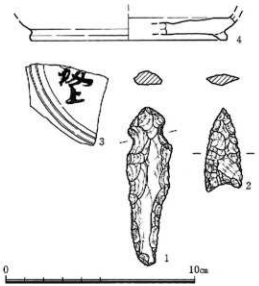
東側の低くなった裾部分には南から北へ伸びる流路があり、流路から東は遺構が希薄で細い溝で繋がった井戸状の土坑を検出したにとどまった。この井戸状の土坑と溝の時期は不明であるが、堆積状況からは流路と同時期かと考えられる。流路は２条あり、どちらも弥生時代末から古墳時代初頭のいわゆる庄内並行期の土器を出土した。以前岸和田市が隣接する八木北小学校用地を調査したときに検出した流路に続くと考えられる。

平安時代の井戸は素掘りで、ここから東南に溝が伸びており、流路跡に掘削されている。

鎌倉時代から室町時代の井戸は曲げ物を井戸枠としており、瓦器椀が出土した。溝は南東から北西伸びており、多量の瓦や瓦質羽釜を出土した。方向的には周辺の地割と軸をそろえるようであるが、微妙にずれているようにも見える。久米田駅付近に小松里廃寺があったと考えられており、寺の北限の溝と考えられる。

府営住宅建設以前の水田跡は条里地割と考えられているが、整然とした部分ではなく、端で微妙にゆがんだ部分であることから、小松里廃寺北限の溝との微妙なずれだけでは判断できないようである。この付近の地割の初現は、今の段階では中世後半以降には確実に存在していたとだけは言えるであろうと考えられる。

遺物は縄文時代の縦型石匙（１）、弥生時代の石鏃（２）、奈良時代の墨書土器（３）、奈良時代の転用硯等が出土した。



第47図　出土遺物図

第48図　調査区位置図

あまべ
余部遺跡（０３０４０・０３０４１）

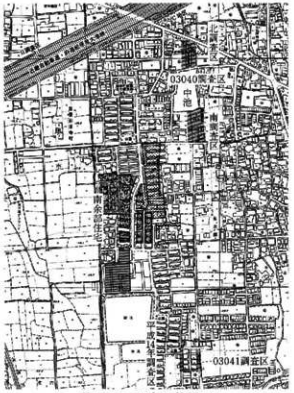
（１）美原町北余部、南余部
（２）府道大阪狭山線建設、府営住宅周辺道路整備
（３）阿部幸一

０３０４０区は府道建設に伴うもので、中池を挟んだ南北２箇所で調査を実施した。

北調査区では河道、ピット、土坑、溝等を検出した。河道は、幅５～６ｍ、深さ0.5ｍ前後を測り、調査区内で東から蛇行して北流する。古墳時代後期頃の土師器が出土している。ピット、土坑はこの河道の南側で検出した。遺構から出土した土器は小破片で時期を特定できない。

南調査区では鎌倉時代頃の掘立柱建物跡、溝、井戸、水溜、轍などを検出した。

掘立柱建物は調査区南端近くで２棟以上を確認した。建物１は４×４間の主屋の北側に２×２間の角屋が付くと考えられる建物で、南側に大きな不定型土坑がある。土器以外の遺物は出土しなかったが、建物内の作業場と考えられる。柱穴には柱根が残るものや、柱を抜いた後、河原石で塞いだものもあった。建物２は、２×１間以上の大きさである。南端で検出した方形の土坑１は３×２ｍ、深さ80㎝を測る。人頭大の河原石や瓦器、土師器が出土しており、井戸か水溜と見られるが、湧水層には達していない。調査区北側は地山が北に緩やかに傾斜する礫混じりの粘質土層が主体となり遺構は少なくなる。

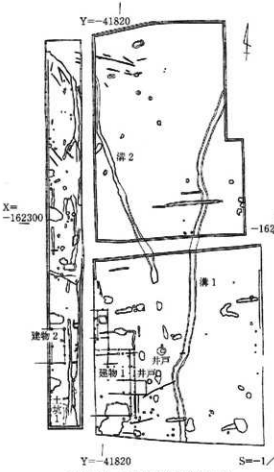


第49図　調査区位置図

溝１の東側では建物跡は確認されず、遺構も減少するので屋敷域を画する溝と考えている。

０３０４１区は余部南住宅周辺道路整備に伴うもので、幅0.5ｍ、延長約70ｍのトレンチと４ｍ四方のグリッドで調査を実施した。トレンチ部は断面観察が主な作業となり、ピット１個と轍を検出した。グリッド部では南北方向に走る轍を検出した。

第50図　余部南地区



第51図　南地区遺構平面図

くわのはら
桑原遺跡（０３０４３）

（１）茨木市桑原
（２）安威川ダム建設事業に伴う残土処分（圃場整備）
（３）泉本知秀

大阪府土木部安威川ダム建設事務所が安威川ダム建設工事に関連して安威川中流域、茨木市桑原地内で工事残土を利用して約100,000㎡の圃場整備を計画し、平成13年12月桑原地区、大岩地区の分布調査の依頼があり、平成14年１月分布調査を実施した。

大岩地区では「ガマ」が２カ所発見された。

桑原地区では遺物の採集はできなかったが集落立地上の良好な地形、桑原古墳群に隣接していることから試掘調査が必要と回答した。

平成15年６月、桑原地区の一次分として約30,000㎡を対象として、予定範囲内の試掘調査の依頼があり、同年12月初めから幅１ｍ、長さ20ｍのトレンチ25本と２ｍ×２ｍのグリッドを12箇所、計548㎡の予定で試掘調査を実施した。予定地は府道茨木亀岡線の南側の農地である。標高は約45ｍ～35ｍで高低差は約10ｍ前後あり北半部はゆるやかに段を形成しながら徐々に下がっていき中央部で急な段差の崖となり南半部は広範囲が平坦である。標高の高いところから段差をつけながら造成するので、盛土の厚さが３ｍ以上になる場所の試掘を行った。南半部の川に近い標高の低い部分は川の氾濫により中世以前の包含層、遺構は残っていなかった。

今回調査範囲内、グリッド調査の一部の場所で近代の石垣が検出されその下層で近世陶磁器、伊万里染付茶碗、備前焼擂鉢等の破片が出土した。

標高の高い場所では遺構、包含層が発見された。

北西角部のトレンチでは地表下40㎝～50㎝で黒褐色粘度がはいった幅数十㎝から１ｍの土坑ないし溝と推定される遺構が検出され、中から瓦器椀、土師器皿、鉄片が出土した。

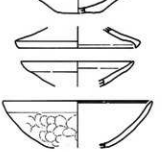
北東部のトレンチの一部では瓦器細片、土師器細片を含む厚さ数十㎝の包含層が確認された。

この部分は小さな谷状凹地のようである。また、中央部東端近くのトレンチでは深さ30㎝あたりで弥生土器がまとまって検出された。

地形から推定して圃場整備が予定されている範囲内の北半部には遺構、包含層が存在するものと推定される。

また府道茨木亀岡線の北側、現在の集落、工場跡地のある範囲は遺構の存在が推定される。また、今回の試掘調査では確認されていないが旧石器、縄文時代の遺構、遺物も出土する可能性もありうる。

第52図　桑原遺跡位置図



5 桑原古墳群　7 弥刀田1号古墳
8 安威古墳群　38 阿武山古墳
39 塚原古墳群　91 塚原古墳群
（高槻市側）　（茨木市側）

第53図　出土遺物

おおあがたぐん

大県郡条里遺跡（０３０４４）

（１）柏原市法善寺４丁目
（２）一級河川恩智川（法善寺）多目的遊水地
（３）岩崎二郎・一瀬和夫

はじめに

生駒山地南端斜面には2,000基近くの古墳が群集する。そして、山麓には複合集落遺跡が連なる。今回、山麓に併行して南北方向に流れる恩智川との間、大県郡条里遺跡の周知場所を中心に、多目的遊水地の計画が持ち上がった。南東に古墳時代の鉄鏃冶生産で著名な大県遺跡、北東に弥生・古墳時代の遺物が出土する山ノ井遺跡が知られる。

本調査地点は柏原市と八尾市の市境となる。北側の八尾市側には山ノ井遺跡と接して神宮寺跡があり、大県郡に属する。1993年に八尾市教育委員会の調査で、弥生時代の井戸、古墳時代後期の土坑・溝、中世の井戸が検出された。神宮寺は常世岐姫神社の宮寺として平安時代初期に建立伝承がある。1994年に本府教育委員会が本調査区と接する北東側を調査し、奈良時代のピット・落ち込みを検出した他、緑釉陶器・須恵器・土師器・製塩土器・弥生土器、瓦が出土し、奈良・平安時代、古墳時代、特に５世紀後半、弥生時代後期の遺構が広がることが分かった。

調査の概要

今回の確認調査対象地はこのような遺跡範囲に入り、次のような成果があった。

東側の東高野街道沿いは扇状地形となり、その微高地上にある２トレンチを中心として、T.P.12m前後の高さで、古墳時代、特に５・６世紀の遺物が多く認められた。中でも特徴的なものに初期須恵器があり、南方の大県遺跡とも考え合わせ、渡来系集団の集落跡が北側の神宮寺跡も含めて山麓沿いに広がることが分かった。また北側１トレンチも含め、弥生土器（中・後期）や庄内式甕（弥生時代末～古墳時代初め）の出土があり、下層に関しても弥生時代後半期の集落が広がるであろう。

上層では溝・土坑とともに、奈良時代の土器と布目瓦が出土する。瓦の出土は対象地中央部の６トレンチまで広がりを見せ、北側の神宮寺跡から対象地南側までの東半分まで、寺院跡ないしは掘立柱建物を中心とした集落跡が集中することになり、南側の平野廃寺との関係も注意される。

さらに、平安時代以降の中世遺物は対象地のほぼ全域に確認できる。特に東側では溝・土坑・落ち込みといった遺構が検出できるとともに、中央北側の５トレンチのT.P.11.5m付近では須恵器・瓦器・土師器・瓦を多く含んだ落ち込み状のものがある。当該期には対象地内に周囲が耕作地に囲まれた屋敷地跡が点在するものと推測される。

このように面的に確認できたものの他に、北西側の７トレンチではT.P.11.6m前後の中世の層中に石器、縄文土器、弥生土器がまきあがって出土することから、さらに下層に縄文時代晩期から弥生時代前期の遺構・遺物が存在することが予期される。

まとめ

以上のごとく、対象地の山ノ井・平野遺跡がのる山麓微高地上には濃密な遺構・遺物が包含されるとともに、恩智川にかけての大県郡条里遺跡の範囲にも縄文時代以降の連綿とした過去の人々の営みが残されていることが判明した。

第54図　調査区位置図

第55図　8トレンチから調査対象地を望む（西から）

たかやすこふんぐん
高安古墳群（０３０４７）

（１）八尾市神立他
（２）府営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業八尾地区
（３）岩崎二郎・一瀬和夫

はじめに

大阪府八尾市信貴・生駒山西斜面には多くの古墳が今なおその姿をとどめる。中でも、標高488mある高安山の斜面には高安千塚こと高安古墳群は、横穴式石室をもつ古墳が群集することで古くからとりわけよく知られる。

この度、丘陵中腹を南北に高安古墳群中心部を通過する農道が計画され、これを受け本府教育委員会が2001年から確認調査と発掘調査を一部開始することになった。本年度はそのうち、計画路線北半の確認調査と発掘調査を実施した。

調査の概要

今年度は、路線の最も北側の「みずのみ道」に取り付く予定地からやや南西にある八尾市神立配水場に西接する地点と、玉祖神社の神宮寺として『河内名所図会』に本尊に千手観音をまつったとある薗光寺跡に東接する地点、及び神立と大窪の境にある古墳状隆起のある地点を調査した。

その結果、薗光寺跡に東接する地点では、中世から近世にかけての屋敷地と考えられる集落跡を確認した。落ち込み、ピットと小溝などを検出し、土師器皿・小皿・土釜・甕、瓦器椀、瓦質火舎、磁器、丸・平瓦などが出土する。最も南端では、古墳時代頃の土師器甕等が出土し、古代以前の遺構・遺物が存在する可能性もある。

古墳状隆起の地点では、縄文土器の出土や、弥生時代後期の土坑、近世の礫群などを検出した。

上層では、下層落ち込み１の窪み上部に相当する場所に、一辺４m程の方形の範囲に拳大から人頭大の石が集積する礫群がある。この集積に規則性はないが、東辺に沿い人頭大の石を南北方向に並べる列が一部に観察できた。また、その石列西側の礫群上を中心に土師器小皿片が散らばる。表面上で露天祭祀を行っていた可能性が強い。

下層では、土坑２基と落ち込み３基を北半の尾根頂部を中心に検出した。いずれも丘陵が東南東方向にゆるやかに下降するにしたがって、同方向に開いた沢状の窪みとなる。

土坑１は2.7×2.0mの卵形の平面と深さ0.5mのすり鉢状の断面を呈する。下層の有機物層からは比較的にまとまって弥生土器壷・小形壷・高杯・鉢が出土した。また、埋土中に縄文土器や石器片も混じる。

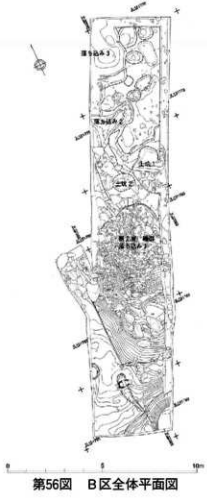
南西側にある落ち込み１は一辺４.0mの方形の平面で、逆台形の断面を呈する。底面は比較的に平らであり、北西側には直径0.5m、深さ0.05mの円形ピットがあった。上層で縄文土器片が出土したのみであるが、埋土の状況から、土坑１と併行ないしはそれ以前のものである。

落ち込み３は平成16年度の調査で北側に横穴式石室が確認でき、この古墳の南側周溝の一部と考えられる。

これらの他に落ち込み３からも、少量ながら弥生土器片が出土しており、尾根上に弥生時代の遺構が広がっていたことが分かる。

まとめ

これらの所見は丘陵中腹における古墳以外に対する文化財の知見を豊富にするとともに、河内平野を一望できる、すぐれた立地に基づき、重層した過去の営みがこの地域にもひろがることを意味する。



第56図　B区全体平面図

ふちゅう
府中遺跡（０３０４８）

（１）和泉市府中町２丁目
（２）大阪和泉泉南線歩道設置
（３）山田隆一

はじめに

府中遺跡は、槇尾川によって形成された扇状地に立地する。今回の調査は、風土木事務所からの依頼により、府道両側に設置する歩道の工事に先立って実施した。道路東側を第１区、西側を第２区とした。

基本層序

両区とも類似する。地表下0.65～0.70mは、盛土である。

第１層　旧耕作土、および床土。

第２層　灰黄色～灰黄褐色系のシルト質土で、粗砂、小礫を含む。層厚30cm程度。中世の遺物包含層である。

第３層　黒褐色～暗褐色系の粘土、粘質土層。層厚5cm程度で、部分的に確認できる。上・下層との層境は明瞭。時期は不明。

第４層　褐色～褐灰色系の粘質土。層厚5cm程度で、両区ともに南方へ漸移的に色調、粘質が弱く、シルト質が強くなり、消失する。上層との層界は明瞭。本層下部は凹凸が著しく下層との層界は不明瞭。下部凹凸の多くは植物根により形成されたものである。土器細片が多数出土し、弥生と考えられるが、詳細な時期は不明。

第５層　灰黄褐色～灰白色系のシルト質土（５ａ層）、シルト（５ｂ層）、砂礫層（５ｃ層）。５ａ層はいくぶん撹拌を受け、５ｂ層は二次的な撹拌を全く受けていない。両層の層界は不明瞭。５ａ層の撹拌は第４層からの植物根も一因である。５ａ層は、若干の土器細片を含み、縄文と考えるが詳細は不明。第２区北端の集石遺構は、５ａ層と５ｂ層の層界部分である。

第１区

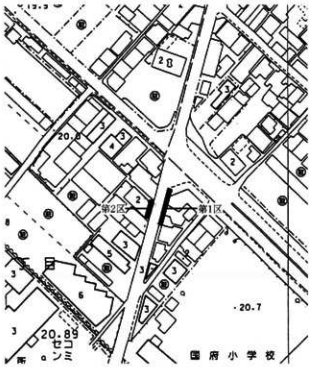
北端部で、微高地の南縁辺を確認した。

この微高地上では、過去の府教委による東側隣接地の調査で、濃密な遺構が確認されている。微高地は、南東方向からの土石流で形成され、粗砂、小礫、礫によって構成される。若干の縄文土器（第58図７）、サヌカイトを含み、縄文時代に形成されたものである。

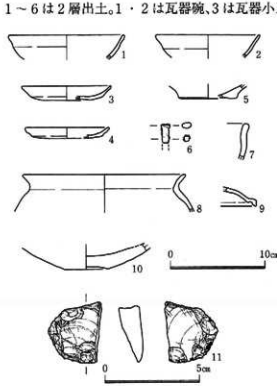
府教委調査に対応する遺構面（５ａ層上面）は、南に低くなり、若干のピット、溝を検出したのみで、明確な遺物包含層は形成されていない。よって、今回の調査範囲付近が遺構面の南縁辺であることが確認できた。

出土遺物（第58図）

１～６は２層出土。１・２は瓦器碗、３は瓦器小皿、



第57図　調査区位置図



第58図　出土遺物図１

4は土師器小皿、5は弥生土器、6は鉄釘である。

第2区

5a層上面で、10数のピットを検出した（第57図）が、建物等の遺構としては認識できなかった。調査区北端部の5b層直上で集石を確認した。この部分は5b層が、北方に低くなり、集石南端はその変換部分にある。集石はサークル状に巡り、北端と東部は調査区外にのびる。周縁部分に石器、自然石が配され、内部からは出土しない。復元直径は、1.8m程度である。なお、集石の検出段階で、周囲から生駒西麓産胎土が主体の土器細片やサヌカイトチップが少量出土した。土器は、出土層序から縄文土器だが、摩滅が著しく、詳細な時期は不明である。

出土遺物（第58図）

8・9は2層出土。10は5a層直上出土の縄文土器底部。11は3層出土のサヌカイトスクレーパーである。

集石は、12点の石器と、21点の自然石が確認できた。後者でも使用痕の有無の識別が非常に困難なものがある。なお、周囲からは同種の石は出土しない。また、石材同定の科学的分析は行なっておらず、肉眼観察による。

1；磨石。きめのやや細かい砂岩。転石。一端に明瞭な研磨面が認められる。

2；磨石。きめのやや粗い砂岩。転石で、一端が欠損する。側縁部に非常に粗い研磨面が認められる。

3；磨石。1～5mm程度の石英を著しく含む、やや紫がかった白色系の石材。転石。横断面は3面をなし、1面に研磨、1面に2ヶ所の敲打痕が認められ、1面は使用していない。

4；磨石。きめのやや細かい砂岩。転石。横断面は4面をなし、各面に非常に弱い研磨が認められる。

5；石皿。きめが細かく、板状節理の認められる石材。両面、および縁面に研磨が認められる。

6；台石。きめのやや粗い砂岩。全面に被熱によると考えられるクラックがある。上面には研磨面と部分的に敲打痕が認められる。側面にも研磨が認められる。

7；台石。きめの細かい砂岩。扁平な転石で、両端部は欠損、裏面は大きく剥離する。上面には研磨面と部分的に敲打痕が認められる。

8；磨石。きめの粗い砂岩。破損が著しく、上面と側縁の一部が確認できるのみである。上面に研磨が認められる。

9；磨石。きめの細かい砂岩であり、和泉砂岩と考えられる。方柱状に成形する。上面に研磨面と敲打痕、側面に研磨面が認められる。

10；台石。きめの粗い砂岩。転石で、一端が欠損する。上面に明確な、側面にやや弱い敲打痕が認められる。

11；台石。きめのやや粗い砂岩。多面、柱状の自然礫で、一端が欠損する。各面に明確な敲打痕、稜線部分にも非常に弱い敲打痕が認められる。

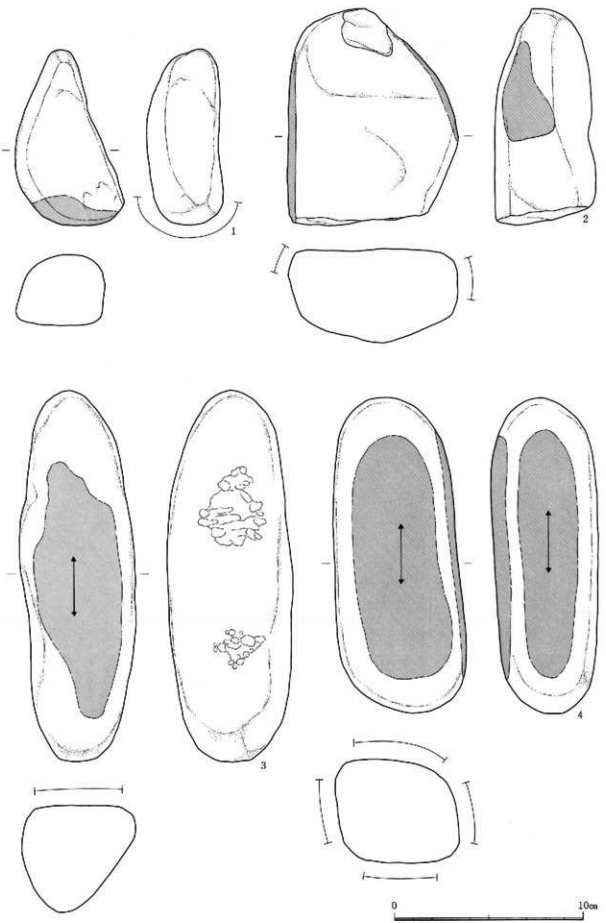
12；くぼみ石。きめの細かい砂岩で、和泉砂岩と考えられる。方柱状の自然礫で、一端が欠損する。上下面に明確な敲打痕が認められる。

まとめ

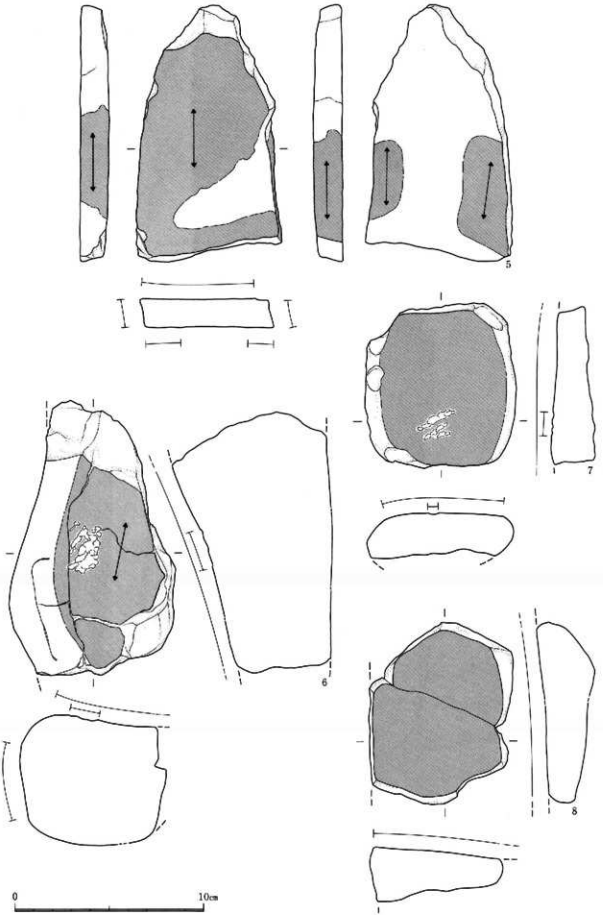
今回の調査で以下のことがわかった。

①第1調査区北端で、微高地の南縁辺を確認した。この微高地上には、府教委による昭和59・61年度の調査で、弥生時代中期後半の集落域、後期の墓域、古墳時代前期の集落域が確認されている。今回の調査で、当該期の府中遺跡の南限を確認したことになった。

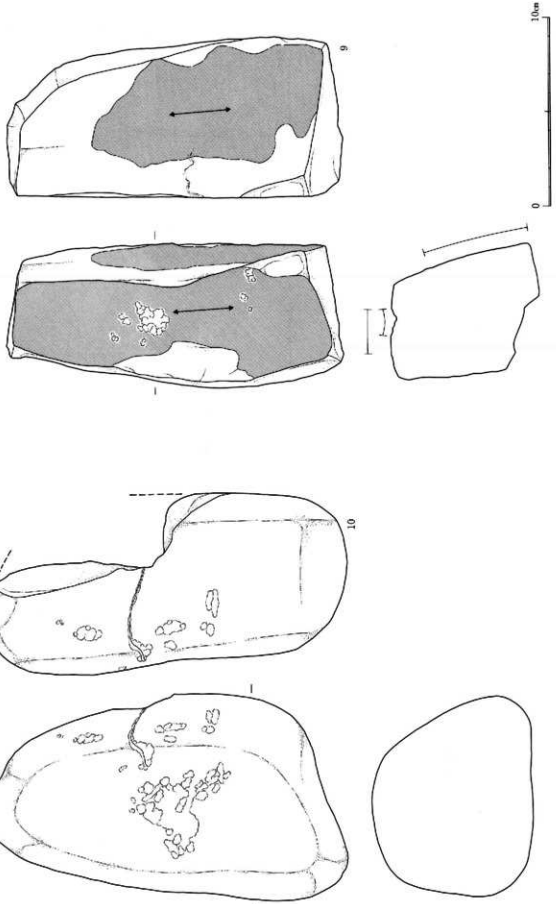
②第2調査区で、サークル状に巡る縄文時代の集石遺構を確認した。33点の集石で、12点に使用痕が確認できた。この種の事例の少ない近畿にあって貴重である。ただし、所属時期の詳細は明確にしえなかったことは残念である。



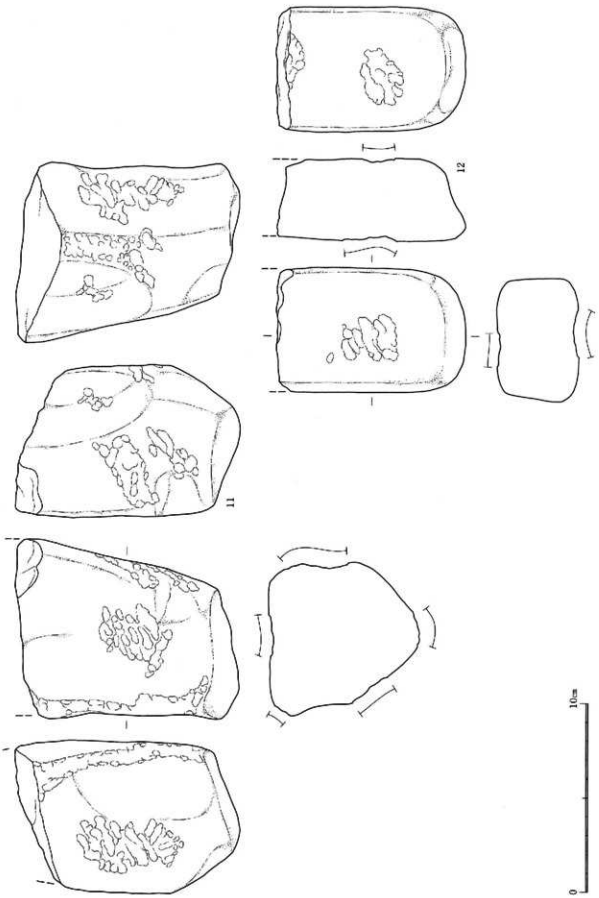
第59図　出土遺物図２



第60図　出土遺物図３



第61図　出土遺物図 4

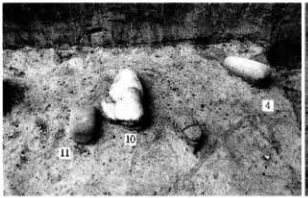


第62図　出土遺物図５

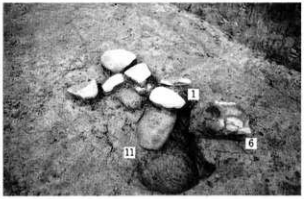
第63図　基本層序（第２区第５ａ面北より）

第64図　第２区集石遺構（北西より）

第65図　第２区集石遺構（南より）



第66図　集石遺構の細部



第67図　集石遺構の細部

おのさと
男里遺跡（０３０４９）

（１）泉南市男里地内
（２）府営ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区（双子上池）
（３）泉南市教育委員会　河田泰之　大阪府教育委員会　藤澤真依

基本土層は4層で、遺構面は２面検出した。
Ⅰ層　暗茶褐色から黒褐色系のシルト。遺物は出土したが、量は少なく、いずれも小片で時期は不明である。自然堆積で、同様の層位は、双子池の東西両岸付近の調査で確認されていることから、本来、付近に均一に堆積していたものと考えられる。Ⅰ層上面でピットを検出した。
Ⅱ層　黄褐色系のシルトで、ごく一部礫混じりの粗砂がみられる箇所がある。上面はＴ．Ｐ．+10.0m前後。調査区の北半において確認した。
口縁端部に刻目、頸部直下に三条の沈線がめぐる弥生土器が出土した。
Ⅲ層　灰色から黄橙色の粗砂からなり、一部に20cm以下の礫が混じる。調査区中央に分布し、上面が流路の検出面となる。遺物は出土しなかった。
Ⅱ・Ⅲ層上面で溝、ピット、流路、竪穴住居等を検出したが、本来はⅡ層上面の遺構であったと考えられる。
Ⅳ層　明青灰色粘土および粗砂に20ｃｍ以下の礫が混じる。調査区全体に堆積しており、遺物は確認しなかった。
ピットは、いずれも直径約0.3m、深さ約0.3mで、柱痕はない。掘立柱建物はとして認識できなかった。8世紀初頭の土師器鍋を出土したピットh切り合い関係から溝より古いものもあることがわかる。
溝は最大幅約0.6m、深さ約0.4m、検出長約30m。南端は途切れているが、堤体構築により削平されたものと推測できる。埋土は2層で、上層は褐灰色シルトで最下層にはラミナがみられる。遺物は上層から縄文土器深鉢、8世紀初頭の須恵器蓋坏・須恵器高坏・土師器坏・土師器皿・移動式竈、中世の瓦質土器を出土した。
流路は幅約10m以上で、南東から北西に流れる自然流路で、埋土は3層あり、1層は、橙色から灰色の細砂から粗砂、黒色粘質シルトからなり、一部に木葉や流木などの有機物のほか20ｃｍ以下の礫を含む。須恵器蓋坏・高坏・壷・横瓶・提瓶・甕、土師器甕・皿・坏・高坏、砥石が出土している。2層は、灰色系の粗砂と粘質シルトからなり、有機物を多く含む。庄内式併行期の壷・甕・鉢・高杯・製塩土器・飯蛸壷・真蛸壷等を大量に出土した。3層は灰色系のシルトから粗砂に、20cm以下の礫を多く含む。縄文土器深鉢・弥生土器壷・弥生土器鉢等を出土した。
竪穴住居は一辺約５m以上の平面方形である。平面検出の状況から、溝に一部切られている。内部施設は、幅約1～1.5m、高さ約0.1mのベット状遺構、柱穴および壁溝を検出した。断面から遺構底面から0.2mほど貼床が施されていることがわかる。拡張などの痕跡は確認できない。柱穴からは柱痕は確認できなかった。床面直上のベット内埋土から甕、柱穴埋土から高坏、貼床から土錘を出土した。庄内式併行期と考えられる。
他にも試掘坑と重複した平面方形の落ち込みを検出した。検出幅1.5mで、断面では壁溝を確認できなかったが、竪穴住居の可能性も考えられる。
双子池の調査で確認した遺構・遺物は、縄文時代晩期から弥生時代前期の遺物、弥生時代中期の流路と遺物、弥生時代末から古墳時代前期の竪穴住居・流路と大量の遺物、飛鳥時代から奈良時代の流路・ピットと大量の遺物。鎌倉・室町時代の井戸等がある。中世には流路は確認されておらず、堰沢し湿地状であったと考えられ、Ⅰ層は中世に形成された可能性がある。堤体構築直前の層位から13世紀後半から14世紀の遺物が確認されており、双子池周辺は中世以降順次耕地化されていき、中世末以降に双子池は構築されたと考えられる。

第68図　調査区位置図

堀（ほり）遺跡（０３０６３）

（１）松原市天美南5丁目
（２）都市計画道路堺港大堀線整備事業
（３）大阪府教育委員会　西口陽一

１、調査方法

事業対象区域に調査区（トレンチ）を10箇所設定し、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しつつ、機械・人力で掘り下げ、確認調査を実施した。

２、調査結果

№１トレンチでは、地表下70㎝に南北朝～室町時代の土坑２基、ピット２基が検出され、土師器浅鉢・甕などが出土した。

№２トレンチでは、西端で旧西除川の流路跡と考えられる自然河川が検出され、土師器・須恵器・瓦器が出土した。東端では、地表下1.2ｍに鎌倉時代の土師器羽釜の入った土坑や遺物包含層が検出された。

№３トレンチでは、自然河川および鎌倉時代のピット・遺物包含層が地表下1.2ｍに検出された。

№４トレンチでは、地表下1.2ｍに平安～鎌倉時代の溝が３本検出され、黒色土器や土師器・焼石が出土した。

№５トレンチでは、地表下90㎝に鎌倉時代の溝やピットが検出され、瓦器・土師器・サヌカイトなどが出土した。さらに、下層を1.3ｍ深掘りすると、古墳後期・奈良・平安時代の厚い遺物包含層が検出された。奈良時代の製塩土器（六連式）が珍しかった。

№６トレンチでは、地表下80㎝に鎌倉時代の土坑が２基検出され、瓦器・須恵器が出土した。さらに、下層1.5ｍから、平安時代の土師器を含む遺物包含層が検出された。

№７トレンチでは、鎌倉時代の瓦器椀や土師器羽釜を含む遺物包含層が深掘り（地表下1.6ｍ）で検出された。

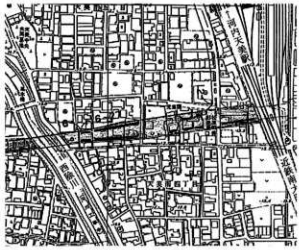
№８トレンチでは、地表下1ｍで須恵器・土師器を含む遺物包含層が検出された。

№９トレンチでは、地表下1.2ｍで鎌倉時代の水田および鞴・牛の足跡が検出され、瓦器・土師器・凝灰岩製砥石が出土した。

№10トレンチでは、地表下70㎝に土師器を含む遺物包含層が検出された。

３、まとめ

以上の調査結果を踏まえ、土木側に、事業区域ほぼ全域から、遺構・遺物が検出されたため、道路改良工事に先立って、発掘調査が必要なこと、また、遺跡外から遺構・遺物が発見されたため、遺跡発見通知が必要と、回答した。



第69図　調査区位置図

第70図　第5トレンチ深堀状況

こさかい
小阪合遺跡（０３０６７）

（１）八尾市南小阪合町１丁目
（２）寝屋川南部流域下水道柏原八尾増補幹線
（３）岩崎二郎・一瀬和夫

はじめに

河内平野南半部を南東から北北西に貫く楠根川沿いに小阪合遺跡は位置する。周辺も含め、弥生時代末から古墳時代初頭の遺跡群が著名である。

本調査地点は昭和58年度に小阪合ポンプ場建設に伴った調査区の南東隅側に位置する。この際の調査では古墳時代前期の溝、平安～鎌倉時代の溝が検出された。その東側は下水管渠築造に伴って、鎌倉時代の水田、北東側では古墳時代前期の埴輪円筒棺が確認されるといった環境を持つ。

調査の概要

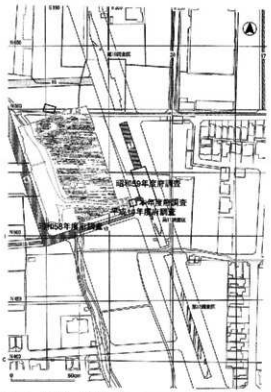
今回の調査対象地はポンプ場と下水管にはさまれた地点になる。東側は1.5～3.5mに既往の調査区があり、それの西側に沿って下水管が入っていた。そのため、調査区の東半分はT.P.6.5mまで乱れる部分があった。

最も残りのよい西側は地表下1.2m、T.P.７.5mまで残り、上部は暗茶灰色±0.3mの厚さで瓦器細片が含まれ、下面は中世になると考えられ、北東－南西方向の細溝を検出した。その下は、厚さ0.2mの赤味がかった灰褐色砂質シルトであり、土師器細片が出土した。下面は古代と考えられ、調査区北側で幅2.0m程になる北東－南北方向の断面皿形の溝を検出し、南東側肩口には同方向の幅0.5mの掘り込みがあった。

その下は厚さ0.25mのオリーブ灰色粘質シルトで上面、T.P.6.7～7.0mで酸化面が認められることから、布留期であると考えられる。この面は調査区北半で北に向かって下降していく。下面は庄内期と考えられ、青味がかった土層となる。その下は厚さ0.5mの灰色砂質シルト、暗灰色砂と続き、遺物の出土はなかった。

まとめ

検出した溝は、上・下面とも北東～南西方向であり、昭和58年度の東西方向のものとは異なるが、南東側の八尾市の第11調査区で北北西－南南西方向の溝がある。これと直交関係となるのであれば、中世期において、南東側の40m程は東西南北と異なった区画があったことになる。



第71図　調査区位置図（断りのない調査区は八尾市分）

第72図　古代面検出状況

第73図　調査区平面図

＜普及啓発・広報事業＞

● 研究会・検討会等

A 研究会

・平成15年９月27日
第47回大阪府埋蔵文化財研究会
テーマ：「大阪府における古代遺跡の発掘調査」
会　場：大阪府教育委員会文化財調査事務所
・平成16年３月６日
第48回大阪府埋蔵文化財研究会
テーマ：「大阪府内の古代・中世の民間信仰に関する遺跡の発掘調査及び記念講演」
会　場：大阪歴史博物館

B 調査等スライド検討会

・平成15年５月14日
西川寿勝「海獣葡萄鏡の編年と舶載をめぐって」
・平成15年６月11日
パリノ・サーヴェイ株式会社
「大阪湾岸域における更新世末以降の古環境について」
・平成15年７月９日
阿部幸一「大和川今池遺跡の調査」
・平成15年９月10日
高島　徹「後漢の象」
・平成15年10月８日
一瀬和夫「河内平野北半部の様相と太秦古墳群」
・平成15年11月12日
亀島重則「府中遺跡の調査」
・平成15年12月10日
井西貴子「招提中町遺跡の調査」
・平成16年１月14日
林　日佐子「弥生時代の交流－ガラス製装身具を中心に－」
・平成16年２月18日
堀江門也「大阪府でおこなった調査事例」
・平成16年３月10日
藤田道子「都屋北遺跡（Ｃ区）の発掘調査」

● 発掘調査の現地説明会

・平成15年７月12日
都屋北遺跡（四條畷市）参加者　約150人
・平成15年９月13日
招提中町遺跡（枚方市）参加者　約30人
・平成15年12月６日
陶器遺跡（堺市）　参加者　約230人
・平成16年２月７日
平尾遺跡（美原町）　参加者　約200人
・平成16年２月23日
アカハゲ古墳（河南町）参加者　約750人

● 職場体験学習

・平成15年６月12日・13日
四條畷市立田原中学校　２年生　２人
都屋北遺跡において、発掘調査および出土遺物の整理作業をおこなった。
・平成15年７月９日・10日
堺市立原山台中学校　３年生　５人
平成16年２月20日
堺市立晴海台中学校　２年生　３人
大阪府立泉北考古資料館において、展示ケースの清掃および収蔵遺物の整理作業をおこなった。

● 博物館実習

・平成15年８月20日～23日・27日(５日間)
立命館大学　２人、大阪明浄大学　１人の博物館実習生を受け入れた。

● 速報展の開催

大阪府教育委員会が実施した発掘調査や遺物整理事業の成果をいち早く公開するため、大阪府立泉北考古資料館において「速報展」を開催した。

・第20回速報展「崇禅寺遺跡」
期　間：平成15年３月18日～５月18日
展示品：須恵器（杯身・壺・甕・有蓋高杯・鉢）12点、円筒埴輪１点、軒丸瓦３点、平瓦３点、瓦器椀３点、土師質小皿３点　計25点
・第21回速報展「シシヨツカ古墳－有力豪族の墓に副葬された品々－」
期　間：平成15年５月22日～８月24日
展示品：ガラス製玉類　約700点、金糸・銀糸一括　須恵器（壺・甕・高杯）７点、横口式石内の敷石５点
・第22回速報展「吉井遺跡－天平宝字三年（759年）銘の木簡－」
期　間：平成15年８月28日～11月23日
展示品：木簡１点、白磁皿１点、土師器（壺・甕）７点、須恵器（壺・平瓶）２点、瓦器椀４点、土師質小皿３点、土師質羽釜１点、掘立柱建物の柱２点　計21点
・第23回速報展「加納古墳群－黄金の耳飾り－」
期　間：平成15年11月27日～16年２月22日
展示品：金環１点、黒漆塗り鞘入り大刀１点、鉄製刀子１点、鉄製釘20点、須恵器（杯身・杯蓋・台付長頸壺・平瓶・円面硯）10点　計33点
・第24回速報展「発見！最古級の馬鍬　－木の本遺跡－」
期　間：平成16年２月26日～５月16日

展示品：馬鍬１点、弓１点、鑓１点、鍬１点、椅子１点、匙１点、杓子１点、容器１点、石包丁２点、石斧１点、石斧の木製柄１点弥生土器（土器棺・壺・甕・鉢・蓋・小型壺・小型甕・小型鉢・把手付鉢・異形土器）15点　計27点

● **優品展の開催**

大阪府教育委員会が所蔵する特に重要な考古資料を公開するため、大阪府立泉北考古資料館において「優品展」を開催した。

・第３回優品展「池上曽根・四ツ池遺跡の木製品」
期　間：平成15年３月25日～９月28日
展示品：木柱、台付鉢、盾、舟形容器、楕円形容器、高杯、用途不明円盤、櫂計13点

● **里帰り展の開催**

独立行政法人国立博物館提唱による「博物館所蔵の考古資料相互活用促進事業」に基づいて、東京国立博物館から大阪府内出土の考古資料を借用し、大阪府立泉北考古資料館において「里帰り展」を開催した。

・第５回里帰り展「馬塚古墳出土の須恵器－鹿と人物の装飾をもつ壺－」
期　間：平成15年10月２日～16年３月14日
展示品：須恵器（装飾付有蓋壺・有蓋壺の蓋・有蓋脚付壺・長頸壺・広口壺・壺（破片）・高杯・器台・杯身・杯蓋計18点

大阪府教育委員会から下記の資料を東京国立博物館に貸し出した。

陶邑TK85号窯跡出土　須恵器鐙１点、
TK73号窯跡出土　須恵器（杯身・杯蓋・樽形鐙・把手付椀）４点
TK87号窯跡出土　須恵器（耳杯・異形鐙・甑）３点　計８点

● **府庁別館における考古資料の展示**

府庁別館１階および８階の展示ケースに、発掘調査成果として出土品の展示をおこなった。

・平成14年７月12日～15年７月９日
「豊臣大坂城を掘る」（１階）
展示品：織部向付１点、小柄１点、羽子板１点、人形１点、弁２点、鋸レプリカ２点、木槌１点、将棋の駒２点、錐１点、包丁１点　計15点
「招提中町遺跡（枚方市）－枚方台地最古の弥生集落－」（８階）
展示品：弥生土器７点（甕４点、甕１点、鉢１点、皮袋形土器１点）、石鏃５点、石錐２点、石包丁３点、石剣１点、太型蛤刃石斧３点、扁平片刃石斧２点、叩き石１点　計24点

・平成15年７月11日～16年２月26日
「弥生人が残した絵画と記号－雁屋遺跡出土の折りの土器－」（１階）
展示品：弥生土器（記号文土器、赤彩文土器）　計14点
「天満砂堆に築かれた古墳－崇禅寺遺跡の権力者－」（８階）
展示品：須恵器（杯身・壺・甕・有蓋高杯・鼈）10点、円筒埴輪１点　計11点

・平成16年２月27日～７月15日
「加納古墳群－黄金の耳飾り－」（１階）
展示品：金環１点、黒漆塗り鞆入り大刀１点、鉄製刀子１点、鉄製釘20点、須恵器（杯身・台付長頸壺・平瓶・円面硯）６点　計29点
「吉井遺跡－天平宝字三年(759年)銘の木簡－」（８階）
展示品：木簡１点、白磁皿１点、土師器（壺・甕）３点、須恵器（ヘラ記号をもつ杯・杯蓋・壺・平瓶）５点、瓦器椀４点、土師質小皿２点、土師質羽釜１点、掘立柱建物の柱２点　計19点

● **資料数一覧**（平成16年3月末現在）

A　出土遺物（整理箱数）

・泉北考古資料館内第１収蔵庫 堺市若松台	10,559箱
・泉北収蔵庫 高石市綾園４丁目	33,356箱
・大井収蔵庫 藤井寺市西大井	12,748箱
・外環高架下収蔵庫 藤井寺市西古室	7,592箱
・志紀収蔵庫 八尾市志紀町西	2,956箱
・北部収蔵庫 摂津市鳥飼中	3,099箱
・東大阪文化財収蔵庫 東大阪市長田東	65,821箱
・文化財調査事務所 堺市竹城台	8,023箱
合計	144,154箱

B　民俗資料

・文化財調査事務所	
谷口家資料	221点
上辻家資料	132点
守田コレクション	約200点
上平家資料	150点
畑野家資料	68点
三宅家資料	

大恩寺資料	
前西家資料	22件

C　その他の資料

・文化財調査事務所

図面資料	4,841ケース
写真資料	6,923ケース
台帳	2,575冊
パネル	671点
図書	30,077冊

平成15年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物

大阪府埋蔵文化財調査報告

２００３－１　『余部遺跡Ⅲ』
２００３－２　『木の本遺跡』
２００３－３　『若江北・亀井・長原（城山）遺跡』
２００３－４　『高槻城跡』－大阪府立槻の木高等学校音楽室建設に伴う－
２００３－５　『堺環濠都市遺跡』
２００３－６　『学園町遺跡』

概要報告

『中畑遺跡発掘調査概要』－府営農地還元資源利活用事業「桜田地区」の調査－
『雁屋遺跡発掘調査概要・Ⅴ』
『部屋北遺跡発掘調査概要・Ⅰ』
『高安古墳群発掘調査概要』府営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業八尾地区の調査－
『加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要・Ⅲ』
－中山間地域総合整備事業「南河内こざせ地区」に伴う－
『陶器南遺跡発掘調査概要・Ⅸ』
『男里遺跡発掘調査概要・Ⅷ』－府営ため池等整備事業泉南Ⅱ期地区（双子上池）に伴う－

『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』７

資料の貸出・掲載・閲覧

長期貸出資料

	貸出・展示先	遺跡名	資料名	点数	備考
1	東京国立博物館	深田遺跡	須恵器	14	
2	国立歴史民俗博物館	池上曽根遺跡	石包丁	3	
3	富田林土木事務所 (大阪府立狭山池博物館)	池尻城跡 大和川今池遺跡	青金 鍬	1 1	
4	大阪府立ドーンセンター	大坂城跡	美濃焼	8	
			志野焼	2	
			中国製白磁	1	
			青花	1	
			ベトナム製色絵皿	1	
5	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔瓦	3	
			重圏文軒丸瓦等	2	
			須恵器	1	
			白磁	1	
			美濃焼	1	
			青花	1	
			天目茶碗	1	
			分銅	1	
			錫	1	
			笄	1	
			写真パネル等	4	
6	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦	10	
			軒平瓦	8	
			鬼瓦	3	
			雁振瓦	1	
			瓦器	7	
			土師皿	11	
			擂鉢	1	
			土師質羽釜	1	
			陶磁器	5	
			硯	1	
7	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器	2	
			須恵器	15	
			土師器	14	
			瓦器	34	
			磁器	2	
			砥石	1	
			木製品	5	
			土錘	1	
			キセル	1	
			加工骨	1	
			展示パネル	16	
8	帝塚山学院大学	陶邑窯跡群	須恵器	50	
9	能勢町歴史資料室	人里遺跡	弥生土器	9	
			土師器	7	
			須恵器	5	
			石包丁	4	
			石斧	3	
			石鏃	7	
			石錘	1	
		上椿遺跡	須恵器	1	
		尾道遺跡	円面硯	1	
			須恵器	3	
			土師器	1	
		九ノ坪遺跡	黒色土器	2	
			土師器	3	
10	豊能町立郷土資料館	余野城遺跡	瓦器碗等	27	

			土師器	4	
			須恵器	3	
			砥石	1	
11	摂津市教育委員会	明和池遺跡	出土遺物	75	コンテナ
12	吹田市立博物館	吉志部瓦窯	複弁八葉蓮華文軒丸瓦	1	
			均整唐草文軒平瓦	1	
			緑釉陶器片	2	
			緑釉瓦片	6	
			窯道具	6	
13	藤井寺市立図書館展示室	三ツ塚古墳	小型修羅	1	
14	美原町立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器碗	27	
			瓦器皿	6	
			瓦質羽釜	1	
			土師器皿	1	
			鋳型片	29	
			鞴羽口片	18	
			鉄製刀子	1	
			青銅製品	2	
			鉄滓系遺物	7	
			砥石	7	
15	太子町立竹ノ内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具（複製）	1	式
16	高石市教育委員会	大園古墳	埴輪片他	100	コンテナ
17	池上曽根弥生学習館	池上曽根遺跡	炭化米	1	ケース
18	和泉市いずみの国歴史館	府中遺跡	弥生土器	10	
			鏡面	2	
		坂本寺跡	軒丸瓦	5	
			軒平瓦	5	
		大園遺跡	有舌尖頭器	2	
			勾玉	3	
			紡錘車	1	
		池上曽根遺跡	弥生土器	15	
			木製品	24	
			大型石包丁	2	
			石斧	11	
			石槍	5	
			投弾	3	
			石錘	2	
			翡翠勾玉	1	
			管玉	5	
			ガラス片	3	
			骨角器	7	
			獣骨	1	
			鹿角	1	
			銅鏃	2	
			八稜鏡	1	
			文字瓦	1	
19	泉佐野市教育委員会	上町・上町東・大西・中開・槻田池・日根野・長滝遺跡他	泉佐野市域における空港連絡道路・連絡鉄道事業に伴う発掘調査出土遺物	1,852	コンテナ
20	サイエンス・サテライト	三軒屋遺跡	縄文土器	1	
		池上曽根遺跡	弥生土器	1	
21	吉志部神社	吉志部瓦窯	単弁十六葉蓮華文軒丸瓦	1	
			平瓦	1	
			緑釉瓦片	2	
			トチン	2	

短期貸出資料

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
1	初芝中学校	四ツ池遺跡	石包丁	2	授業資料
			石鏃	3	
			土錘	2	
		鷹原遺跡	弥生土器	2	
2	初芝中学校	陶器南遺跡	須恵器	2	授業資料
		菅田御願山古墳	埴輪	2	
		新堂廃寺	軒瓦	2	
3	個人	陶邑窯跡群	須恵器	12	講義資料
4	柏原市立歴史資料館	玉手山10号墳	捩文鏡	1	
			同写真	1	
			円筒埴輪	3	
			墳丘写真等	5	
5	津山市教育委員会	郡際北遺跡	移動式かまど	1	
			U字形板状土製品	3	
			韓式系土器	1	
			木製輪鐙	2	
			馬骨	9	
			遺物写真	6	
			木製輪鐙等出土状況写真	2	
6	大阪府立弥生文化博物館	志紀遺跡	貨幣	10	
		箕面経塚	貨幣	11	
			写真パネル	1	
		吉野遺跡	貨幣	1,213	
			銭甕	1	
			備蓄銭出土状況写真	1	
		三田遺跡	貨幣	9,103	
			銭甕	1	
		家原寺	貨幣	14,672	
			銭甕	1	
		大坂城跡	貨幣	200	撮影
		高屋城跡	貨幣	3	〃
		志紀遺跡	航空写真	1	
		土師の里遺跡	航空写真	1	
			遺物出土状況写真	1	
7	初芝中学	余部遺跡	瓦器	3	授業資料
			土師器	1	
			羽釜	1	
			鉢	1	
			甕	1	
			陶磁器	3	
		向泉寺跡	軒丸瓦	2	
			軒平瓦	2	
8	個人	陶邑窯跡群	須恵器	6	分析資料
9	大阪歴史博物館	吉野遺跡	銭甕	1	
			緡銭	2	
			銭甕出土状況フィルム	1	
10	富田林土木事務所 (大阪府立狭山池博物館)	鴨田池東遺跡	瓦塔片	1	撮影
			石帯	1	〃
			墨書土器	1	〃
			掘立柱建物跡遺構写真	1	
			ため池遺構写真	1	
		光明池38－Ⅱ号窯跡	人名瓦「大庭造」	1	撮影
		河合遺跡	木簡	3	〃
			栓蓋	1	〃
11	富田林土木事務所 (大阪府立狭山池博物館)	鴨田池東遺跡	須恵器	19	実習資料
12	早稲田大学會津八一記念博物館	鍋倉南遺跡	亀ヶ岡式縄文土器	4	

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
13	初芝堺中学	堺環濠都市遺跡	陶磁器	13	授業資料
			貨幣	3	
14	四條畷市教育委員会	菅贄寺遺跡	六器	9	撮影
			二器	3	〃
			火舎香炉	2	〃
			銅製小仏像	1	〃
			密教法具出土状況写真	1	
		正法寺跡	墨書土器	1	撮影
15	個人	陶邑窯跡群	須恵器	12	講義資料
16	個人	田井中遺跡	自然木	3	分析資料
		蕃屋北遺跡	自然木	1	〃
17	初芝堺中学	岸和田城跡	陶磁器	5	授業資料
			焼塩壺	3	
			軒丸瓦	1	
		大坂城跡	陶磁器	2	
			木製品	4	
18	個人	大坂城跡	黒楽茶碗	2	分析資料
19	大阪府立弥生文化博物館	田井中遺跡	弥生土器	3	
		土師の里遺跡	円形埴輪	2	
		久宝寺遺跡	弥生土器	1	
		木の本遺跡	弥生土器	1	
		国府遺跡	円筒埴輪片	1	
		誉田御廟山古墳	円筒埴輪片	1	
20	吹田市立博物館	野々井遺跡	弾琴人物埴輪	1	
			同写真	1	
21	岸和田市教育委員会	馬子塚古墳	斜縁二神二獣鏡	1	
			同写真	1	
			管玉	15	
			同写真	1	
22	美原町教育委員会	平尾遺跡	石製帯飾り	1	
			陶製鏡	3	
			須恵器	12	
			土師器	12	

掲載等許可資料

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
1	個人	笂面経塚	和鏡	3	撮影・掲載
			青白磁容器	6	〃
			銅銭	4	〃
			褐釉陶器片	1	〃
2	羽曳野市教育委員会	垂井御旅山古墳	三角縁三神三獣鏡	1	転載
			壺形土器	1	〃
3	美濃加茂市民ミュージアム	はざみ山遺跡	旧石器時代住居址写真	1	貸出・掲載
4	堺市立埋蔵文化財センター	土塔	軒瓦拓本	2	貸出・掲載
			文字瓦「書磨」「年蔵次丁」写真	2	〃
			文字瓦「車曜」「真刀」「麻呂」写真・拓本・実測図	3	〃
5	(株) 小学館	陶邑窯跡群	陶器山８７号窯出土耳杯	1	撮影・掲載
			陶器山85号窯出土須恵器	1	〃
6	個人	新堂廃寺	調査状況写真	20	貸出
7	泉大津市教育委員会	池上曽根遺跡	調査状況写真	1	貸出・掲載
8	仙台市富沢遺跡保存館	はざみ山遺跡	85-7区　土壙写真	1	貸出・掲載
9	(株) 小学館	田井中遺跡	出土土器写真	17	貸出・掲載
		堂山１号墳	甲冑写真	4	〃
		林遺跡	鉄鉾写真	2	〃
10	舞洲陶芸館	陶邑窯跡群	出土須恵器写真	6	貸出・撮影・掲載
11	園部町教育委員会	新堂廃寺	鴟尾写真	1	貸出・掲載
12	(株) ミネルヴァ書房	久宝寺遺跡	出土土器写真	1	貸出・掲載
		雲振遺跡	出土土器写真	1	〃
		百舌鳥古墳群	航空写真	1	〃
		古市古墳群	航空写真	1	〃

依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
13 個人	峯山御廟山古墳	外堤出土円筒埴輪写真	6	貸出・掲載
	岡座遺跡	81-4区出土円筒埴輪写真・拓本	3	〃
	野中ボケ山古墳	表採円筒埴輪写真	1	〃
	峯ヶ塚古墳	表採円筒埴輪写真	1	〃
	帯上山古墳	出土円筒埴輪写真・実測図	1	〃
14 個人	西町泰行所	調査状況写真	10	貸出
	大坂城跡	調査状況写真	20	〃
15 山本土木（株）	総持寺遺跡	航空写真	2	貸出・掲載
16 日本放送協会大阪放送局	郡屋北遺跡	馬埋納土壙写真	5	貸出・番組制作
		製塩土器出土状況写真	6	〃
		調査状況写真	3	〃
17 個人		妙国寺のソテツ他天然記念物写真	1	貸出
18 泉大津市教育委員会	穴師薬師寺跡	調査状況写真	1	貸出・掲載
19 松阪市文化財センター	土師の里遺跡	船形埴輪出土状況写真	1	貸出・掲載
		船形埴輪写真	1	〃
20 泉大津市教育委員会	大園遺跡	出土旧石器写真	1	貸出・掲載
	摩湯山古墳	前方部写真	1	〃
21 四條畷市教育委員会	郡屋北遺跡	馬埋納土壙写真	1	貸出・掲載
22 （株）小学館	宮振遺跡	出土鉄剣形銅剣	1	貸出・掲載
23 （株）浜島書店	郡屋北遺跡	馬埋納土壙写真	1	貸出・掲載
24 個人	郡屋北遺跡	調査状況写真	25	貸出
25 鳥取県立博物館	新堂廃寺	出土鵄尾写真	1	貸出・掲載
26 （株）新人物往来社	郡屋北遺跡	馬埋納土壙写真	1	貸出・掲載
27 日本民家集落博物館	はざみ山遺跡	旧石器時代住居址写真	1	貸出・掲載
	南花山遺跡	旧石器時代住居址写真	1	〃
28 藤井寺市教育委員会	三ツ塚古墳	修羅出土状況写真	4	貸出・掲載
29 高槻市親音坂考古資料館	二ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	貸出・掲載
30 かみつけの里博物館	盾塚古墳・鍬塚古墳	調査状況写真	2	貸出・掲載
31 （株）浜島書店	二ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	貸出・掲載
32 （株）第一学習社	陶邑窯跡群	TG61号窯復元写真	1	貸出・掲載
33 （株）学生社	八尾南遺跡	出土旧石器実測図	7	転載
	南花田遺跡	出土旧石器実測図	1	〃
34 （有）レプン	陶邑窯跡群	出土須恵器写真	2	転載
	陶邑窯跡群	TG61号窯復元写真	1	〃
		泉北考古資料館等写真	3	〃
35 東京法令出版（株）	陶邑窯跡群	TG61号窯復元写真	1	転載
36 藤井寺市教育委員会	はざみ山遺跡	旧石器時代住居址写真	1	転載
37 河内長野市教育委員会	高野街道	調査対象古道概略図	1	転載
38 和泉市教育委員会	横山遺跡	調査日誌	1	資料調査
39 （株）小学館	三ツ塚古墳	修羅出土状況写真	1	転載
40 （株）ジャパン通信情報センター	郡屋北遺跡	調査状況写真	1	貸出・掲載
		馬埋納土壙写真	1	〃
		船材転用井戸写真	1	〃
41 香芝市教育委員会	誉田山15号墳	出土埴	3	貸出・掲載
42 個人	築金山古墳	測量図	1	掲載
43 個人	堺環濠都市遺跡	出土備前焼大甕	1	撮影・掲載
44 堺市南支所地域振興課	野々井二本木山古墳	出土石棺写真	1	貸出・掲載
45 四條畷市教育委員会	郡屋北遺跡	馬埋納土壙写真	1	掲載
46 相模原市立博物館	新堂廃寺	出土鵄尾写真	1	転載
47 個人	大坂城跡	出土包丁実測図	1	レプリカ作成
48 大東市立歴史民俗資料館	堂山1号墳	出土甲冑写真・主体部全景写真他	7	現地説明板作成
49 （有）オフィス・ウィン	一須賀古墳群	6号墳出土瓶	1	貸出・掲載
50 柏原市教育委員会	玉手山10号墳	出土捉文鏡	1	転載
51 （株）おうふう	堀屋遺跡	出土土器写真	1	転載
52 （株）小学館	誉田御廟山古墳	出土円筒埴輪	2	撮影・掲載
	西小山古墳	出土円筒埴輪	2	〃
	仲津山古墳	出土円筒埴輪	1	〃
	堂山1号墳	出土円筒埴輪	1	〃
53 （株）小学館	善上山古墳	出土家形埴輪	1	撮影・掲載
54 （株）小学館	青山4号墳	出土猪形埴輪写真	1	貸出・掲載
	誉田御廟山古墳	盾形埴輪写真他	7	〃
	萱振1号墳	鰭付円筒埴輪写真他	21	〃
	宮山寺83号墳	甲冑形埴輪写真	1	〃
	太平寺古墳群	蓋形埴輪写真	1	〃
	善上山古墳	盾形埴輪写真他	3	〃

	依頼者	遺跡名	資料名	点数	備考
55	(財) 大阪府文化財センター	萱振遺跡	萱振1号墳復元写真	1	貸出・掲載
56	(財) 大阪府文化財センター	部屋北遺跡	出土鞴形土器写真	1	貸出・掲載
57	(株) 小学館	誉田御廟山古墳	出土埴輪	1	撮影・掲載
		仲津山古墳	出土埴輪	1	〃
		西陵古墳	出土埴輪	1	貸出・掲載
		西小山古墳	出土埴輪	2	〃
		宇度墓古墳	出土埴輪	6	〃
		誉田御廟山古墳	出土魚形土製品	1	転載
		誉山御廟山古墳	出土小壺類	1	〃
58	藤井寺市教育委員会	部屋北遺跡	馬埋納土壙写真	2	貸出・掲載
59	中央公論美術出版	大坂城跡	出土台鏡	4	貸出・掲載
60	(有) コーベット・フォトエージェンシー	はざみ山遺跡	旧石器時代住居址写真	1	貸出・掲載
61	(株) 小学館	壺井御旅山古墳	壺形埴輪列出土状況	1	貸出・掲載
62	(株) 弥呂久	陶邑窯跡群	TG61号窯復元写真	1	貸出・掲載
			泉北考古資料館外観等写真	2	〃
63	行橋市史編纂委員会	はざみ山遺跡	旧石器時代住居址写真	1	貸出・掲載
64	(株) 小学館	墓山古墳	出土人物埴輪写真	1	貸出・掲載
65	藤井寺市秘書広報課	三ツ塚古墳	修羅出土状況	1	貸出・掲載
66	個人	平尾遺跡	調査状況写真	4	貸出・掲載
67	茨木市史編さん委員会		瑞光山正東院蓮花寺梵鐘写真	2	貸出・掲載

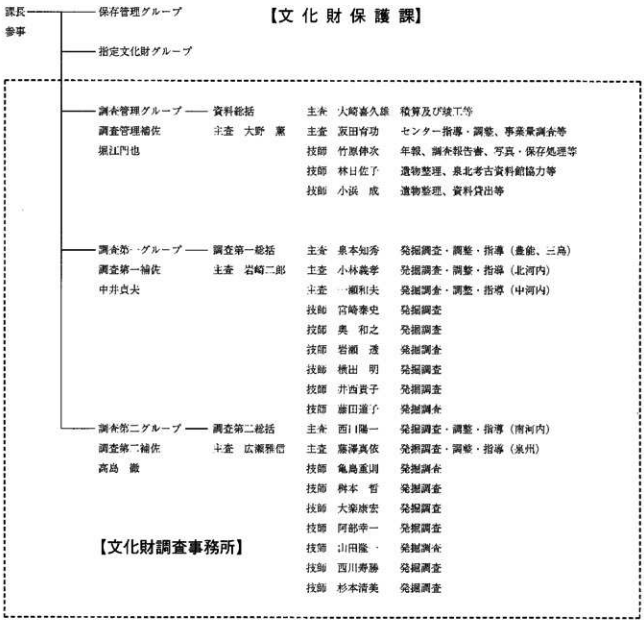
資料閲覧

	所属	遺跡名	資料内容	目的
1	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
2	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
3	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
4	柏原市立歴史資料館	玉手山10号墳	撮影フィルム	展示
5	大山崎町教育委員会・精華町教育委員会	応神天皇陵古墳外濠外堤	瓦溜	学術研究
		古室遺跡	瓦塔	
6	神大学校	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
		部屋北遺跡	U字形板状土製品	
7	大山崎町教育委員会・精華町教育委員会	百済寺跡	塩具瓦	学術研究
		高宮廃寺	軒瓦	
		国府遺跡	軒瓦	
8	瀬戸内海歴史民俗資料館	陶邑窯跡群	猿頬壺	学術研究
9	(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団			学術研究
10	立命館大学	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
11	専修大学	鳥坂寺跡	三彩火舎	学術研究
12	大手前大学	誉田御廟山古墳	円筒埴輪	学術研究
		仲津山古墳		
		向陵古墳		
		西小山古墳		
		堂山1号墳		
		唐櫃山古墳		
13	東北芸術工科大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
14	東北芸術工科大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
15	東北芸術工科大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
16	大阪歴史博物館	吉野遺跡	銭笵・銅銭	展示
17	(株) 小学館	陶邑窯跡群	須恵器	出版
18	大阪歴史博物館	百済寺跡	軒丸瓦	学術研究
19	立命館大学	ツゲノ古墳	埴輪	学術研究
20	大手前大学	木の本遺跡	弥生土器	学術研究
21	北陸短期大学	木の本遺跡	弥生土器	学術研究
		田井中遺跡	弥生土器	
22	立命館大学	萱振遺跡	弥生土器	学術研究
23	大阪府立狭山池博物館	鴨田池東遺跡	石帯	展示
24	大阪府立狭山池博物館	鴨田池東遺跡	須恵器・瓦塔	展示
25	茨城県教育財団	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
26	堺市立埋蔵文化財センター	光明池29号窯	宝輪	学術研究
27	堺市立埋蔵文化財センター	細井廃寺	凸面布目平瓦・塼	学術研究
28	高松高校	陶邑窯跡群	土錘	学術研究

	所属	遺跡名	資料内容	目的
29	福岡市教育委員会・九州大学	雪振遺跡	古式土師器	学術研究
		崇福寺遺跡	古式土師器	
30	立命館大学	土師の里遺跡	蓋形埴輪	学術研究
31	福岡大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
32	福岡大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
33	福岡大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
34	橿原考古学研究所	部屋北遺跡	出土遺物	学術研究
35	大阪歴史博物館	大坂城跡	斧	学術研究
36	南山大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
37	福岡大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
38	九州大学	原山古墓群	蔵骨器	学術研究
		野々井遺跡	蔵骨器	
		石鬼遺跡	鉄板	
39	立命館大学	招提中町遺跡	石包丁・両刃石斧・片刃石斧	学術研究
		田井中遺跡	石包丁・両刃石斧・片刃石斧	
		稲葉遺跡	柱状片刃石斧	
		上遺跡	石包丁・両刃石斧	
		喜志遺跡	石包丁	
40	立命館大学	招提中町遺跡	石包丁・両刃石斧・扁平片刃石斧	学術研究
		田井中遺跡	両刃石斧	
		喜志遺跡	石包丁	
41	個人	大坂城跡	出土遺物	学術研究
		堺環濠都市遺跡		
42	立命館大学	安威遺跡	土師器・須恵器	学術研究
43	立命館大学	安威遺跡	土師器・須恵器	学術研究
44	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 名古屋市立見晴台資料館	部屋北遺跡	U字形板状土製品・竈他	学術研究
45	大野城市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
46	大野城市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
47	四條畷市教育委員会	普賢寺遺跡	密教法具	展示
48	立命館大学	安威遺跡	土師器・須恵器	学術研究
49	大阪歴史博物館	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
50	立命館大学	安威遺跡	土師器・須恵器	学術研究
51	立命館大学	安威遺跡	土師器・須恵器	学術研究
52	大阪大学	総持寺遺跡	須恵器他	学術研究
53	大山崎町教育委員会	応神天皇陵古墳外濠外堤	瓦	学術研究
54	(財)小谷城郷土館		文化財調査事務所見学	総合学習
55	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	部屋北遺跡	U字形板状土製品・製塩土器他	学術研究
56	立命館大学	太田茶臼山古墳	埴輪	学術研究
57	立命館大学	土師の里遺跡	土師器・須恵器	学術研究
58	大阪大学	堂山1号墳	須恵器	学術研究
59	大手前大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
60	立命館大学	土師の里遺跡	土師器・須恵器	学術研究
61	弥生文化博物館	田井中遺跡	弥生土器・石器	展示
62	京都大学	玉手山10号墳	埴輪	学術研究
63	立命館大学	太田茶臼山古墳	埴輪	学術研究
64	立命館大学	ツゲノ遺跡	埴輪	学術研究
65	富岡林市教育委員会	新堂廃寺	鴟尾	出版
66	立命館大学	ツゲノ遺跡	埴輪	学術研究
67	立命館大学	土師の里遺跡	土師器・須恵器	学術研究
68	立命館大学	太田茶臼山古墳	埴輪	学術研究
69	立命館大学	土師の里遺跡	土師器・須恵器	学術研究
		津堂遺跡	土師器・須恵器	
70	立命館大学	ツゲノ遺跡	埴輪	学術研究
71	弥生文化博物館	国府遺跡	巴形銅器	展示
		玉手山東横穴	鈴鏡等	
72	立命館大学	土師の里遺跡	土師器・須恵器	学術研究
73	大手前大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
74	大阪歴史博物館	大坂城跡	陶磁器	学術研究
75	名古屋大学	談輪遺跡	縄文土器	学術研究

	所属	遺跡名	資料内容	目的
76	名古屋大学	淡輪遺跡	縄文土器	学術研究
77	名古屋大学	淡輪遺跡	縄文土器	学術研究
78	名古屋大学	淡輪遺跡	縄文土器	学術研究
79	堺市立班蔵文化財センター	新堂廃寺	瓦	学術研究
80	明治大学	誉田御廟山古墳古墳	埴輪	学術研究
81	吹田市立博物館	野々井古墳	弾琴人物埴輪	展示
82	(財) 香堀蔵文化財調査センター	堺井御旅山古墳	壺形土器・円筒埴輪	学術研究
83	奈良女子大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
84	豊中市教育委員会	豊中市内遺跡	戦前の調査写真	学術研究
85	奈良女子大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
86	立命館大学	八尾南遺跡 大園遺跡	土師器 土師器	学術研究
87	奈良女子大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
88	豊中市教育委員会	豊中市内遺跡	戦前の調査写真	学術研究
89	九州国立博物館設立準備室	陶邑窯跡群	須恵器	展示
90	大東高校	鷹屋遺跡	手捏り形土器	学術研究
91	西都市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
92	西都市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
93	立命館大学	津堂遺跡 北岡遺跡	土師器 土師器	学術研究
94	愛媛大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
95	愛媛大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
96	堺市立埋蔵文化財センター 枚方市教育委員会	高宮廃寺 百済寺跡	軒瓦 軒瓦	学術研究
97	(財) 大阪府文化財センター	中田遺跡 八尾南遺跡	庄内式甕 庄内式甕	学術研究
98	摂津市教育委員会	明和池遺跡	出土遺物	調査
99	慶北大学校	都屋北遺跡 長原遺跡 総持寺遺跡 陶邑窯跡群	U字形板状土製品・陶質土器 初期須恵器 初期須恵器 須恵器	学術研究
100	奈良女子大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
101	奈良女子大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
102	名古屋女子大学	陶邑窯跡群	須恵器	学術研究
103	奈良文化財研究所	総持寺遺跡	埴輪	学術研究
104	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所	山井中遺跡 木の木遺跡	石包丁 石器	学術研究
105	奈良市教育委員会	並井御旅山古墳	埴輪	学術研究
106	(財) 大阪府文化財センター	総持寺遺跡	調査図面	出版

平成15年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図



大阪府教育委員会文化財調査事務所年報８

発行日　2005年3月31日
発　行　大阪府教育委員会
〒540-8571
大阪市中央区大手前2丁目
TEL　06-6941-0351
編　集　大阪府教育委員会文化財調査事務所
〒590-0105
堺市竹城台３丁21-4
TEL　072-291-7401
印　刷　株式会社　中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL　06-6976-8761